

1. 2019年度海外留学(実績)

対象学科	派遣先大学等	派遣期間	派遣人数	単位認定	研修目的等
英米語学科	アルバータ大学(カナダ)	2019年4月～12月 (9ヶ月)	1	有	派遣先であるカナダに滞在しながら多様性を尊重する多文化共生社会を理解するとともに、グローバル社会で活躍するために必要な実践的英語力を向上させる。
中国語学科	北京師範大学長期(中国)	2019年2月～翌年1月 (12ヶ月)	2	有	グローバル社会で活躍しうる有為な人材の育成を目標とし、国際未来社会で求められる中国語の実践的な能力を向上させるとともに、中国の社会や文化への理解を深める。
	北京師範大学短期(中国)	2019年2月～6月 (5ヶ月)	3	有	
	復旦大学(中国)	2019年2月～翌年1月 (12ヶ月)	3	有	
	浙江大学(中国)	2019年2月～翌年1月 (12ヶ月)	1	有	

2. 2019年度海外研修(実績)

(注)○は奨学派遣

対象学科等	派遣先大学等	派遣期間	派遣人数	※単位認定	研修目的等
日本語学科	○ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)	2020年2月22日～3月8日 (16日間)	2	—	オーストラリアで行われている日本語教育の現状を理解するとともに、授業実践を通して日本語に関する専門知識、日本語教育に関する知識と能力を身につける。
英米語学科	○カリフォルニア大学ロサンゼルス校(アメリカ)	2019年8月25日～9月15日 (22日間)	10	有	国際未来社会で活躍できる英語コミュニケーション能力を向上させるとともに、各派遣先国の社会、文化をより深く理解し、多様化する社会で自ら積極的に行動できる異文化対応能力を身につける。
	カンタベリークライストチャーチ大学(イギリス)	2019年8月17日～9月8日 (23日間)	6	有	
	シーキューユニバーシティ(オーストラリア)	2020年2月16日～3月14日 (28日間)	5	有	
	○ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)	2020年2月22日～3月8日 (16日間)	2	—	
中国語学科	北京師範大学(中国)	2019年8月3日～8月25日 (23日間)	8	有	国際未来社会で求められる中国語の実践的な能力を向上させるとともに、中国の社会や文化への理解を深める。
	○東呉大学(台湾)	2020年2月25日～3月3日 (8日間)	7	—	台湾の標準語としての「国語」と明海大学で学んだ「普通語」との発音や語彙における差異を調査。同時に東呉大学での学生交流などを通じ、現地の社会・文化・習慣への理解を深める。
外国語(GSM)	アジア研修(シンガポール)	2019年8月26日～8月31日 (6日間)	18	有	現地企業の視察を通して、異文化を理解し、日本企業または外資系企業がどのようにアジアでビジネスを展開しているか、またその課題について学ぶ。
外国語(教職)	ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)	2020年2月22日～3月8日 (16日間)	4	—	国際未来社会で活躍できる英語コミュニケーション能力を向上させるとともに、教育の分野で活躍できる能力を身につける。
経済学科	○シーキューユニバーシティ(オーストラリア)	2019年8月17日～9月7日 (22日間)	13	有	国際未来社会で活躍できる英語コミュニケーション能力を向上させるとともに、オーストラリアの社会、文化をより深く理解し、多様化する社会で自ら積極的に行動できる異文化対応能力を身につける。
	アジア研修(シンガポール)	2019年8月26日～8月31日 (6日間)	13	有	現地企業の視察を通して、異文化を理解し、日本企業または外資系企業がどのようにアジアでビジネスを展開しているか、またその課題について学ぶ。
不動産学科	○ケンブリッジ大学(イギリス)	2019年9月1日～9月10日 (10日間)	4	有	イギリスの街づくりや都市開発の事例を視察するとともに、イギリスの不動産市場や都市計画などの不動産学の講義を受け、日本とイギリスを対比することでグローバルな視点から不動産学の知見を深化させる。
	ケンブリッジ大学(イギリス)		10	有	
	○建国大学校他(韓国)	2019年8月30日～9月5日 (7日間)	5	有	
HT学科	○ハワイ大学(アメリカ)	2019年8月20日～9月6日 (18日間)	10	有	世界有数の観光地であるハワイの観光産業施設等を見学し、ハワイの魅力や歴史・文化がどのように観光に影響しているか理解を深めるとともに、観光関連の講義を受け、英語の運用能力を実践する。

※単位認定に当たっては、研修出発前後の事前・事後授業等、現地での研修及び授業外学習の時間数を満たし、その成果が認められた場合に単位を認定します。

長期留学成果報告書

留学先国及び留学先大学：University of Alberta

留学期間： アルバータ大学 2019 年 4 月 26 日（金）～ 2019 年 12 月 25 日（水）

1 留学先で学習した内容について、詳しく書くこと（400 字以上）

留学先ではまず初めに語学学校で EAP135 というクラスと EAP140 というクラスを履修しました。両クラスともアカデミックの授業の下準備ということもあってエッセイの書き方について多く学びました。135 ではエッセイの仕組みについて学びました。その他にも耳を英語に慣らすためにリスニング、一つのことにについてクラスの皆で話し合うディベートなどもしました。140 ではもっとアカデミックに直結するような内容でした。エッセイでは他のソースから情報を引用をしたり、書くお題が 135 の何倍も難しく苦戦しました。インストラクターが言うには 140 が一番難しいらしく実際に受けて実感しましたがアカデミックより難しかったです。平均睡眠時間も 4 時間ほどで毎日宿題に追われていました。アカデミックでは運動学の授業を履修しました。教授がとても気さくな方で毎回、楽しく授業をうけることができました。特に思い出に残っていることは SNS についての講義で人の投稿を見て自分との生活スタイルと対比し劣等感を感じてしまうと言う内容でした。人は自分の輝いているところだけ投稿し、いかに自分が周りと違うことを見せびらかすと聞いた時は自分の投稿を見返し自分はどうだろうなど SNS の心理学的な見方を学ぶことができました。

2 留学先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上）

留学中はシェアハウスで自分を含め 4 人と共同生活をしていました。入寮初日は自己紹介から始まり誰一人もネイティブスピーカーではなかった為彼らの母国語混じりの英語には苦戦しました。生活面では自炊することが多く、食費を浮かせるために寮の近くのスーパーに行かずバスを使い寮から少し離れた激安スーパーのようなどころに行っていました。カナダで自炊に初挑戦だったので作るレパートリーは最初の頃は少なくよく胸肉に味付けをして食べていました。現地の学生と交流して気がついたことは、彼らは本当にフレンドリーであると体感しました。気さくに話しかけてくれたり僕に友達を紹介してくれたり彼らのお陰で沢山の友達を作ることができました。留学後期になると料理のレパートリーも増えパスタやオムライスなど作って食べていました。一番美味しかった食事はシャケのバターホイル焼きでした。カナダはサーモンが安くよく食べていました。またサーモンにはタンパク質が豊富でなおかつ良質なフィッシュオイルを摂取することができカナダで痩せることもできました。

3 留学を振り返って

(1) 留学を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを留学前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

留学で成長したことはもちろんのこと語学能力である。生活するためにもカナダで生き延びていくためにも英語は必須だった為毎日英語を使い生活していました。僕の場合リスニング能力が一番上がったと思います。帰国後に受けた TOEIC のリスニングが飛躍的に伸び自分の成長が数字として確認できて嬉しかった。また海外では全て自分のことは自分でしていたため、帰国後に家事などを一人でできるようになったことも大きく成長したと思いました。留学前は掃除機をかけることが面倒と感じていたが帰国後は率先して掃除機をかけ少しでも母の負担を減らすことで家族に貢献できていると思います。カナダでは人としての心の成長が大きいと思います。自分のことを第一に考えることなく人のことを考え行動することができるようになったと思います。留学中に感じたことは自分の今までしてきた勉強がどれほど未熟だったのかと痛感しました。周りの学生は世界に目を向け国際的な情報やニュースに関心を持っている中自分は話に何もついていくことが出来ず自分の教養のなさを痛感しました。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

将来はカナダで培った語学能力を客室乗務員として生かしたいです。客室乗務員では高い語学スキルとマナー作法が求められます。留学が終了した今僕の語学能力は使わない限り落ちる一方だと思うので日本でも英語を使い能力を落とさないように努めたいです。TOEIC で 900 点目指し毎日何か小さなことでも英語に触れせつかくの留学で得た語学能力を無駄させないようにしたいです。学校生活では、少しでも後輩達に尊敬されるような先輩になりたいです。英語が他の子達より話せるからと言って威張ることなく自分が実際にカナダで経験したこと感じたことを下の世代に共有し一人でも留学志願者が増えるようにしたいです。当たり前のことではあるが今回の留学にはたくさんの方々のサポートがある為そのことを忘れず学業を甘んじることなくまた単位も一つも落とすことなく大学生活を送りたいです。客室乗務員になるためにはまず適正検査を突破することが一番の僕の目標であるため、毎日コツコツ SPI の勉強をして少しでもいい結果を残せるようにしたいです。

4 今後留学する人へのアドバイスや心構え、メッセージ等について、詳しく書くこと (400 字以上)

留学は想像以上に過酷で挫折しそうになるかもしれませんが必ずその先に希望の光が見えて来ると思います。実際、僕も 8 ヶ月の間にストレス性胃腸炎で 10 キロ痩せたり家に引き籠ったりしたことがあります。持ち前の負けん気で必死に頑張っていました。だからこそ今 TOEIC のスコアが飛躍的に伸びたり、自分にもっと自信がつかしました。カナダに着いた頃は右も左もわからずさらに自分の英語能力に自信が持てず同じ日本からの留学生の子達と行動を共にし、日本人といるといる安心感に甘えていましたが、今思うと少し後悔しています。もちろん日本人とのコミュニケーションも大事でしたが彼らよりもっと大事な英語を使うという機会を逃していました。最初は怖くてたまらないと思いますが、行動しない限り新たな発見はないと思うので、ハングリー精神を忘れず頑張ってください。カナダにいる間に自分の英語の能力が上がっていると感じることは気がつきにくいのですが帰国後のテストなどで必ず結果がついて来るのでカナダでは殻に籠るのではなく自分を思いきり出せばいいと思います。

長期留学成果報告書

留学先国及び留学先大学：中国 北京師範大学

留学期間： 2019年2月18日(月)～ 2020年1月1日(水)

1 留学先で学習した内容について、詳しく書くこと(400字以上)

【聴力の授業】

リスニングの授業では教科書の内容を繰り返し聞き繰り返しリピートする。一度長い文章を聞いた後、区切りのいい所で意味を説明していく。予習復習が大事な授業だ。一コマで進むところまで行ったら、その教科書に沿った質問をされる。前期の先生は一人一人当てていたが、後期の先生は指名をしなかった。特に宿題はなく、毎日文章を繰り返し聴くことが課題だった。テストではほぼ選択問題がでた。

【読書の授業】

まず新出単語を勉強する。一課は大体35～80まであった。レベルが上がるにつれ新出単語も増えていく。前期では単語テストがあり、後期では先生が言った文章の書き取りテストがあった。

次に文章をよむ。一人一人当てられる。読めない単語がある無いように予習をしっかりしなければならない。そして、文法の説明をする。英語と一緒に説明してくれたので分かりやすかった。テストでは単語(拼音、穴埋め)選択問題、文法問題、文章問題がでた。

【会話の授業】

教科書の文を読むことがメインである。一人一人当てられることが多い。次に文法説明にはいる。特に重要な文法は、2人は巧みになって例文をつくる。または、前に出てショート劇を行った。後期の授業では、毎週一回パワーポイントを使いテーマに合わせた発表を行う。テスト形式は口頭質問だ。単語の発音、教科書の内容確認、3分から5分ほどの暗記作文がでた。

【報刊の授業】

新出単語を読み、教科書の文章をよむ。一人一人当てられる。課題として、1人8回新聞の記事をまとめ自分の意見を書く事が出た。そして2回クラスの前でパワーポイントを使い発表した。一課がある程度終わるとグループでこの記事についてどう思うかディスカッションがある。

テストでは、単語(使い方)穴埋め、文章読解がでた。

2 留学先での生活(滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等)について、詳しく書くこと(400字以上)

【滞在形態】

前期は第3寮で1人部屋で生活した。トイレシャワーが一緒に、テレビ・冷蔵庫・ベット・机・ポットと十分に生活ができる。一部屋ずつ大きさは違うが十分な大きさである。洗濯は五十元10回のチケットを買い、各階二個ある洗濯機を利用する。ゴミなどは係の人が毎朝取り替えてくれる。時々トイレ掃除と排水溝を掃除をしてくれる。マイナスポイントは値段が高いところだ。

後期からは新松公寓の2人部屋で生活した。c1という一番安く一番狭い部屋を選択した。日本人と同部屋にすることも出来るが、私は語学上達を目指し、マレーシア人と住んだ。初対面で一緒に生活することは容易ではない。お互いの性格と生活習慣を理解する事が大切だ。設備は第3寮と殆ど変わらない。ベットが2つあり、その間はスーツケース2.5個分ぐらいだ。知らない人と生活した事ない私にとって、この距離感はずぐに慣れることはできなかった。1人になりたいときは外に出るなど工夫したければならぬので大変である。メリットとして中国語を話せる環境作りという点では良いと思う。理解できない問題を教えてもらい、すぐに解決することができた。

3 留学を振り返って

(1) 留学を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを留学前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

日本文化の素晴らしさを改めて感じた。中国の生活は日本ではないような事が多い。例えば、食事情だ。中国では食事のゴミや骨を机の上に捨てる習慣がある。そのあとにすぐに店員が掃除しにくる。日本では見られない光景だ。最初は驚いた。だが、それも中国の文化であると理解できた。実際に中国に来なければ文化背景を理解する事は出来なかったと思う。ただ、食べ方が汚い中国人で終わっていたと思う。日本では綺麗に使うというのが当たり前で、よりその素晴らしさに気がつくことができた。

中国文化だけではなく様々な文化に触れ合う事ができた。私のクラスメイトにはイスラム教の方が何人かいる。学区内にはイスラム教専用の食堂がある。教徒以外はお金が払えない仕組みになっている。私はそこに連れて行ってもらって一緒に食事をとった。料理は一般の中華料理と変わらない。食事にはどのようなルールがあるのか聞いてみたが、認可されている食堂ならどんな肉でも全て食べていいらしい。ただ、それは個人の自由であると言っていた。1つの宗教にも様々な考えを持てる事がわかった。友達の考えや生活を聞かされた事で視野が広がった気がする。中国語を勉強している仲間として切磋琢磨できている関係は大切なものだという事を教えてくれた。また、年齢関係なく学びたいという気持ちがとても強い事に圧倒された。正直イスラム教の国の学習環境がどのくらい整っているのか分からない。戦争も起こりうる環境でどのような大学生活を送っていたのか想像もつかない。こんなに環境も整っている日本で育った私が、学ぶ事に対する姿勢が負けている事に恥ずかしさを覚えた。そして見習わなければいけないと思った。

一方的に伝えようとしても相手に理解しようという気持ちがなければ伝わらない。実際に拙い中国語でもとても伝わる友達と、なんとなくしか伝わっていない友達がいる事を感じた。言葉だけではない事を知り、大切なのは心だという事を学んだ。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

日本の文化を世界に広めていきたい。相手の文化を受け入れ理解することはとても視野が広がるのがわかった。留学中は私が多くの事を教えてもらった。次は私が日本の素晴らしさを伝える側になりたい。相手を理解していればどうアプローチすれば日本の良さが伝わるのか、興味を持ってもらえるのかが分かると思う。これは自分の強みになると思う。それと同時に探究心は忘れないようにしたい。そうでなければ考えが固定化され相手を受け入れる力がなくなってしまうと思う。それは違う文化を持つ人だけに言えることではない。日本人同士にも言える事だ。社会人になり様々な立場の人と関わることになる。自分が受け入れてもらうのではなく、自分が相手を受け入れら姿勢を見せれば必ず少しは興味を持ってもらえると思う。それは言葉が通じなくても言える事だと留学を通し実感した。最後まで諦めずに何か方法はないか考え臨機応変に行動できる取り組む社会人を目指したい。

4 今後留学する人へのアドバイスや心構え、メッセージ等について、詳しく書くこと (400 字以上)

【生活面でのアドバイス】

環境に慣れる速さは人それぞれであるということ。私も実際環境に慣れる速さが周りとは違い焦った。しかし、その事を気にしていたら余計に空回りすると思う。気持ちだけ前に出てしまい、更に辛くなる。気にするなどはいえ気にしてしまう気持ちもわかる。だが、毎日少しでも進歩していれば留学をしている意味があると思う。私は後期になり、中国語に伸び悩んでいる時期に後期から入学してきた子たちが、とても中国の生活に生き生きしているのを見てかなりの焦った。周りの環境に感わされず自分の気持ちを強く持つ事が大切だ。このように環境の変化は常に起こる。これも経験であり成長できる1つのステップであったと感じる。無理せず、リラックス出来る方法を見つけるなどすると良いと思う。

【日本人との付き合い方】

私は日本人会で開催されたよさこいに参加した。2ヶ月毎週2回2時間練習した。とてもハードな練習だったし、よさこいで悩んだ事もあった。だが、本番はライトを浴び何百人から歓声を浴びとてもいい思い出になった。日本人だけのコミュニティーに参加するのも1つの楽しみ方だと思う。そこでの情報交換や先輩方からのアドバイスなどを沢山いただける。また、人脈作りにも繋がる。しかし、日本語ばかり話してしまっは意味がない。夜まで遊んだり、中国語を話すのは一日四時間の授業だけなんて事はとても勿体ない。だから、後悔しないように中国留学を楽しんできて欲しいと思う。

長期留学成果報告書

留学先国及び留学先大学：中国 北京 北京師範大学

留学期間： 2019年2月18日（月）～ 2019年6月19日（水）

1 留学先で学習した内容について、詳しく書くこと（400字以上）

授業で学んだ事は中国語で科目は3科目、聴力、会話、読写だ。聴力は先生が教科書の文章を読み、生徒達が繰り返して読んでいた。そこで出た新出単語の意味と読み方について一つずつ確認して、次の授業の時に小テストを行っていた。聴力の授業だけ他の授業とは違い一つの大きい章に対して、内容の異なる小さい文章が二つあった。それを毎回一日で終わらせていて、宿題はあまり出なかった。会話の授業も文章を読み、単語を説明しながら先生やクラスメイト達と単語や文法を使って話していた。また宿題では、その日に学んだ単語を使った対話文を作り音声を録音したり、パワーポイントを作り先生に連絡アプリを通して提出したりも一か月に二回ほど行っていた。提出した次の日に、クラスメイト達の前でフィードバックをしていた。読写も本文を読み単語を確認する流れは一緒だった。読写というだけあり、宿題で本文の内容を読み取り書き写したりする作業が多く、宿題が一番多かった。三科目とも明海大学の中国語の授業でやっている、本文と単語を読む事は殆ど同じだと思った。明海大学との異なる点は宿題が多かったのと、中国語を使い授業を行っていた点が全く違った。

2 留学先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

留学先での生活は困る事がほとんどなかった。寮が一人部屋で自分の時間も確保できていた為そこでのストレスも感じなかった。ただ部屋の細かいところでの悩みは多く、埃が溜まりやすく掃除を毎日していた所や、風呂に入る時のお湯が冷たいのか熱いのかのどちらかしか出ず、そこに慣れるのにも時間がかかった。食事は、自炊をすることは一度もなく、寮の近くにある学生食堂によく食べに行っていた。それも一食当たりの値段も高くなく、大体日本円で150円ほどだった。ただ辛い料理と脂っこい料理が最初は慣れなくてきつかった。途中からは中国の料理に飽きてしまった為外食することも多かった。気候は日本とも変わらず空気が乾燥してる為冬さきはとても寒かったが、春頃は蒸し暑さもなく日陰にいれば涼しくて寧ろ日本よりも過ごしやすかった。中国人との交流は大学内の中国人は留学生相手に気を使って話してくれるの為ある程度言ってる意味を理解することができたが、外に出るともごもご喋られたりすごい速さで話されて聞き取れない時は多々あった。

3 留学を振り返って

(1) 留学を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを留学前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

留学を通じて感じた事は二つある。一つは語学だ。それは自分の語学力がまだまだで、明海大学での中国語の授業だけじゃ絶対に語学力を伸ばすことはできないと思った。まず環境を日本語や母国語を使ってはいけない空間に変えなければいけない。先生も中国語だけを使って授業を行う様にしなければ、これから外国語を学び話そうと考えてる人達には難しいだろうと強く思った。留学に行く前、自分は少しは中国語ができ、話すのも何とかなるだろうと思ってしまったことがある。今思うと少しはできるではなく、少しもできないの間違いだった。読み取る能力は高くても話すとなると別で、日本人同士で中国語を学ぶのと中国人や外国人達と中国語を学ぶのでは得られるものの価値が全然違うし、実際に現場で場数を踏まなければ話すことはできないだろう。自分がどれだけ日本で緩く中国語を学んでたのかよく身に染みた。二つ目は日本にいる時と中国にいる時の考え方が変わる点だ。簡単に言うとどこまで許容できるかの幅が中国ではすごい広がる。中国では暑ければお腹を出したり上裸になるし、お店の店員も携帯を見たり音楽を聴きながら接客をしているが、これらに対してきた来た当時はおかしく思ったが、何の違和感も感じなくなった。逆にこのラフさが日本にないのが少し息苦しくも感じてしまう。だからと言ってこの現状を変えなければいけないとゆう訳ではないが、もう少し自分の生きやすいように生活して、それを許容できる世の中でもいいのではないかと考えた。いい意味で価値観が広がった。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

具体的な行動としては、中国語の能力をこれからも上げていく為に、検定を積極的に取りに行ったり、中国人がたくさん住んでて中国語を話せそうな、上野や川口に自分から出向いてみようと思う。それと中国語だけでなく英語の重要性が身に染みたので英語もまた勉強してトリリンガルになりたい。その後にはマレー語や広東語も学びたい。自分の一生は語学勉強だと思う。またそのように自分が積極的に動けるように具体的なイベントなどを早め早めにどんどん組んでいく。考え方の面では、やる前に考えるのではなくやった後に考える、とりあえず気になったことはやってみる、留学前とは異なるスタンスでいきたい。留学して気づいた事でクラスメイト達は皆私よりも年上だったがいっぱい失敗していた。それが仕事だったらできないだろうが、学生だからこそ失敗できると知っていて、だからこそ思いっきりやっていた。そうすれば自分に何ができて、自分に何ができないのかを知り、より成長できると思うし私もそのように中国でやってきた。これを日本でもやりたいと思う。

4 今後留学する人へのアドバイスや心構え、メッセージ等について、詳しく書くこと (400 字以上)

今後留学する人は本当にどんなことでもいいから日本ではできない様な、留学中しかできない事やって欲しいと思う。例えば日本人が自分一人で外国人達とご飯を食べに行ってお話したり、友達と国内を旅行したり今しかできない事やって欲しい。時間はビックリするほど早く進んでしまうし、日本で過ごしてる時と同じ様に過ごしていたら本当に無意味だと思う。語学力を上げたい人は、日本にいたら行かないようなイベントなどにわざと申し込むといいと思う。外国人との交流会やスピーチコンテストなど日本にいても面倒で絶対にやらないが、自分を追い込めるような不利な状況をわざと作るといい。人に迷惑をかけてやっとな自分が成長できると思う。ただ一つ気をつけて欲しい事は、日本人である自覚を持つことだ。自分が留学して感じた事の一つで、日本人というだけで印象がいいという事。嫌な風に思われたいし、日本の文化に対して興味津々に話しかけてくれる。それは、自分達が留学するより前に留学してた先輩達が何も問題を起こさず何事にも感謝して良い印象を与え続けてくれたおかげだと思う。自分達が留学してもこの考えを忘れずに自分達の後輩にも伝えていって欲しい。

長期留学成果報告書

留学先国及び留学先大学：中国 復旦大学

留学期間： 2019年2月16日(土)～2020年1月12日(日)

1 留学先で学習した内容について、詳しく書くこと(400字以上)

初めて復旦大学で授業をした時は、どの授業でも先生の言葉がなかなか聞き取れず、慣れるまでは全然わかりませんでした。しかし、慣れてくるとだいたいのことはわかるようになり、成長を感じました。授業は「精読」「口語」「听力」「泛読」「写作」の5科目で、精読は単語や文法、口語は討論や発表、听力はリスニング、泛読は読解、写作は作文でした。一番授業数が多い精読は最も重要なので、他科目に比べて比較的ゆっくりと丁寧に解説してくれました。次に授業数が多い口語と听力はクラスで見たときに、よく話す外国人が多いので相対的に日本人が苦手な分野という印象を受けました。実際、私はどちらも授業についていくのが大変でした。逆に泛読と写作は日本人が比較的得意で、私は日本での授業内容とほとんど同じだと思いました。しかし、作文はハガキや推薦文のように書き方が指定されているものや、そもそもテーマが難しいものであったりして大変でした。宿題は精読と写作はほぼ毎回出され、復習になっていました。それ以外の科目では不定期で出され、主に次の授業のための準備である場合が多かったです。

2 留学先での生活(滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等)について、詳しく書くこと(400字以上)

私は復旦大学の寮のサブビルディングに住んでいました。そこはそれぞれ個室がある4人1組のシェアハウスでした。基本的には個室で過ごすので、洗面とトイレとシャワーがシェアになっている1人部屋という感覚でした。中国での生活は、買い物が完全にキャッシュレスになっていて、電波さえあればすぐに会計できる上にお釣りの計算もいらないので非常に便利でした。他に、上海市内にはレンタル自転車がたくさんあり、いつでもすぐに見つけられるのでとても便利でした。さらに安いので私はちょっとした移動でもすぐに自転車に乗っていました。現地の人と会話した時は、同じ中国人でも聞き取りやすい人もいれば全然聞き取れない人もいたので不思議だと思いました。日本で勉強した難しい文法などは中国で普通に生活する分には使う機会がほとんどなかったので、それよりも日常用語といった基本的なことをしっかりわかっている方が役立つ場面が多いと感じました。交通ルールでは日本と異なる部分がいづらかあるので、慣れるまでは横断歩道渡るのが怖かったです。

3 留学を振り返って

(1) 留学を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを留学前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

私は中国語を話す前に頭の中できちんと文章を完成させてからでないと話すことができませんでした。しかし、中国で毎回そんなことをしていたら会話が成り立たないので、私は今回の留学で頭で考えるより先にとにかく何かしら話すように決めていました。自分が言ったことを後から振り返ってみると訳の分からないことを言っていたり、文になってなかったりとすごい恥ずかしい思いをしたけれども、それでもちゃんと通じていることが多かったのうれしかったです。さらに、同じような状況にまたなった時には、瞬時に正しく返せるようになっていたので成長を感じました。中国に来たばかりの頃は、知っているはずなのに量詞の使い分けができず、全て「个」と言っていました。生活していて店員などの言葉を何度も聞いているうちに自然と使い分けができるようになっていました。これらの成長は留学していなければ絶対に得ることができなかったので、これだけでも今回の留学は有意義だと感じました。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

今回の留学で自分から色々と試してみたことで少しは勇気と積極性が養われたと思いました。なので、これらを長所となるように磨いていき、これから始まる就活に役立てていきたいです。中国に来たばかりの頃は、本当に何もできず不安なことだらけだったけれども、結局なんとかなって最悪の事態に陥ることもなかったので、自分には意外にも適応力があるのかなと思いました。この力は大学を卒業してこれから環境が変わっていく上で必要なので思いがけず身につけて良かったです。1年間という長期にわたって留学をしたことで、中国の交通や食事、マナーなどの文化的背景を知ることができました。日本の中国への印象はまだまだ良くなっていないので、これを活かして中国への印象を少しでも良くしていきたいと思っています。日本のニュースでは中国の良い部分がなかなか取り上げられないので悪い印象を受けがちだけれども、文化的背景を知ることによって受け入れられる部分は多々あるので、みんなに中国を知ってもらいたいと思います。

4 今後留学する人へのアドバイスや心構え、メッセージ等について、詳しく書くこと (400 字以上)

中国への持ち物については、水に流せるティッシュと日本食があれば便利だと思います。中国には日本のような品質のティッシュはありません。探せば日本の輸入品のを買えますが高いです。そして、中国のトイレトペーパーは水に流すことができないので、水に流せるティッシュはティッシュ兼トイレトペーパーとして大活躍します。日本食はある程度ありますが、それでも無い物が多いので好きなものであればたとえカップ麺でも重宝すると思います。クラスについては、最初のクラス分けテストを通してほとんど決められます。もし2つのクラスで悩んだら、個人的には下のクラスから余裕を持ってスタートすることをお勧めします。理由は2つあり、1つ目は聞きなれるのに時間がかかるからです。聞き取れない上に内容も難しいと授業についていけなくなるので、初めは自習でも理解できる程度が良いと思います。2つ目は、テスト毎にクラスが半強制的に上がるからです。中間テストでも上がるので約2ヶ月でクラスが上がることになります。申請すれば下げることもできますが、前回と全く同じ授業を同じ教科書で受けることになるので実質下がれません。なので、下のクラスから始めることをお勧めします。

長期留学成果報告書

留学先国及び留学先大学：浙江大学

留学期間： 2019年2月20日（水）～ 2020年1月16日（木）

1 留学先で学習した内容について、詳しく書くこと（400字以上）

前学期のクラス(3班)では、精読・閲読・口語・リスニングという四教科の授業を受講しました。後学期になると、自動的にクラスが一つ上がり4班のクラスでした。1から3番までが、リスニングですが四班からはリスニングから作文という授業に切り替わります。授業では、個人的に言うところ三半の授業の難易度は標準だったかなと今は思います。しかし、会話の授業は特に大の苦手です。いつも会話の授業がある度に緊張して、4声がかかりずれたりなど、うまく話せなかったり、通じなかったりしてとても苦戦したことを鮮明に覚えています。四班の授業は全体的に難しかったです。1日ごとの単語量がかかり増え、文章の内容も少し難しくなりました。精読は、主に文法並び替え、各自で新出単語の1部作りなどが宿題として出されました。閲読は漢字の成り立ち、文章構成の説明、長文読解といったようなもので、3班の時は少し授業が退屈だったこともありましたが、4班の接続は理解するのに大変で分からなかったりしました。会話の授業は中国と自分たちの国の日常生活の違いだったり、毎回クラスメートのこと組んで発表したり、自分の国についての紹介をしました。作文の授業は手紙や掲示板的な書き方などを学びました。日本で受ける中国語の授業より非常に難しいとつくづく感じました。

2 留学先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

寮の部屋は1人部屋で第1印象はとてもシンプルな部屋だと思いました。浙江はシャワーのスペースに凹凸がないのでトイレの方まで床が水浸しになります。1回だけ流れが悪く、部屋にまで浸水した思い出があります。そうならないために、排水溝の蓋を取ってお風呂に入ると流れが良くなったので、自分で工夫するのが良いです。壁がとても薄いので、廊下を歩いているとシャワーの音だったり色々な音が聞こえるので、プライバシーというものはないようなものでした。

授業については外国人の方々は率先して質問したり、勢いが凄いなと感じました、あとは皆、流暢に中国語を話しているのでとても驚きました。逆に自分ができなさすぎて劣等感をひしひしと感じながら日々生活をしていました。最後に中国に来た当初、現金生活をしていた時、大学内のスーパーでおつりをばったられました。大学内のスーパーは安全だと聞いていましたが、どこでも警戒しないといけないなと思いました。

3 留学を振り返って

(1) 留学を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを留学前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

私は浙江大学に留学するのが 1 人だけでしたが、行く前は全然不安な要素がなく落ち着いていました、絶対なるとかなるのかなと思っていたので緊張感は全くありませんでした。しかし、中国についてから大学内が広すぎて迷いながら寮に帰った記憶があります、全く知らない土地でその中誰 1 人として知り合いがいなく、1 人で行動していたので正直来てから不安になりました。中国語もいざとなるとすぐには口に出せず、考えながら発言していました。今まで大学で中国語を勉強してきたから、多少は通じるかなと勝手に思い込んでいましたが、通じなくて困っていました。浙江大学の受付の人達は冷たい人が多く通じないため息など、面倒くさそうに対応するので少し答えていました。クラスの授業も頑張っついでいくのがやっついで特に会話の授業など話せなかったり、先生の言っていることが全然理解できなくてとても落ち込んだりした日が多かったです。

でも、少なくとも発言はしようと簡単なことでも話したり努力はしました。日本だと意味がわからないときは日本語で教えてくれましたが、中国は教えてくれる人はもちろんいないので、自分の中国語のレベルの低さが身に染みるほど痛い思いをしました。そんな思いを少しでもなくするために友達と極力ご飯を食べに行ったり、アプリなどを利用して、中国語を使う機会を増やしました。少しずつ瞬発的に発することができるようになったので、成長したかなと思います。あとは中国にいと日本ではあり得ないことがたくさん起きるので、動揺せず冷静になって問題解決ができるようになったので、内面の部分も変化が見られたと思います

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

今回の留学でアクシデントが多かったので、焦らず冷静に対処ができる力が養われたと思います。中国以外でもあることなので、今後何かアクシデントが生じた時は活用できたらいいなと思います。あと今更わかったことが語学に関わらず勉強は楽しく勉強ができるのが一番だなと留学して恥ずかしながら、ようやく分かりました。ただ単語の勉強ではなく、自分の興味があるものを利用して勉強できたら吸収が早いことがわかったので、留学を終えた今でもドラマなどを見て語学力を維持していきたいです。中国でいろんな国の友達ができたので、そのためにも頑張ります、このことにより、いかに自分が興味を持ってやることができるかが大事だと気がつきました、もちろん就職活動では留学した以上、中国語利用できるところに就職をしたいです、以下のようなことは頭ではもちろん理解していますが、体で実感してないことが多いです。当たり前に分かっていることでも気が付くと全然分かっていないことがようやくわかりました。色んな国の人々が友達になって文化など知れたのもっと海外に興味を湧きました。将来は海外移住をしたいと考えているので他言語も勉強したいと思います。

4 今後留学する人へのアドバイスや心構え、メッセージ等について、詳しく書くこと (400 字以上)

私が伝えておきたいことは 3 つです。まず 1 つ目は留学に行く決めてる 1.2 年生、それなりの覚悟を持って下さい。語学勉強に励んでほしいです。普通に教科書の勉強ではなく実践的にネイティブの人との会話を積極的にしてみたり、言語効果アプリを利用したり、中国ドラマを見たりするなど、現地の中国人が使っている中国語が少しでもわかるはずですよ。私は中国語のレベルが低くて行った当初は相当苦労しました。留学に行きたいというのは簡単ですが、自分が実際に行ったからわかるのが、生やさしいものではありません、なのでよく考えてみてください。少しでも身につけていくのでは、だいぶ違うので頑張ってみてください。2 つ目は、実際なんとかなります。私は 1 人でしたが、積極的に日本人の方と知り合ってお互い協力し合いながら乗り越えてきました。困った時は頼れるのは日本人なので何人かと知り合えると良いと思います。あとは積極的に現地の人に尋ねてみるのもありです。必死に自分で解決しようと思うので、必ずなんとかなります。安心して下さい。でも一旦心を落ち着かせて、物事を考えてみましょう。そうすれば解決ができます。自分を信じてあげてください。3 つ目は、時間は有限なので、できるだけ色々な国の人達と交流を大事にして色々な場所に行ってみてください。広州は上海と比べて歳ではないですが、全然暮らしには困りません。最近あって地下鉄の工事などで街も少しずつ変化しています。日本人は少しずつ増えていますが、それでも少ない方です。私は杭州に留学して良かったと思います。とりあえず恐れずにチャレンジしてみてください絶対あなたにとってかけがえのない一生の思い出になります。応援しています。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等：アメリカ UCLA

研修期間： 2019年8月25日（日）～ 2019年9月15日（日）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

午前中はアカデミックとカルチャーとビジネスの3つのカテゴリー毎に設定されたトピックの中から自分は、アカデミックとカルチャーを選びました。アカデミックの授業ではジムキャリーのトゥルーマンという映画を題材に、作中に出てきた英語の表現を学びました。これは、教科書には出てこないような口語表現が多く、初めて聞くものが大半を占めており、意味を推測することも困難でした。カルチャーの授業はシチュエーションコメディのドラマを見てアメリカの文化を学び、それについてディスカッションするというものでした。中でも、スラングについてのトピックの授業は非常に興味深いものでした。午後は、DiscoverLA という授業を選択し、ロサンゼルス有名な場所を実際に訪れ、そこで現地の人にインタビューをしました。インタビューする相手を見つけ声をかけ動画を撮影していいかを聞くという作業を自分でしなくてはいけないので、最初はとても緊張しましたが、現地の方々はみんなとても優しく自分の拙い英語でも話を理解しようとしてくれました。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

今回の研修では、大学の寮に宿泊をしていた。寮の部屋は三人部屋で各階に共用のシャワーとトイレがあった。ロサンゼルスは雨が降らないので水が貴重なのか至る所に節水を促すポスターが貼ってあった。一階に食堂があり平日の朝と夕食はほとんどここの食堂でとっていた。寮から授業を受ける教室までは歩いて20分ほどあり、坂道が多かった。休みの日にはいろんな所へ出かけた。移動にはバスをよく利用したが、その中で気づいた事はロサンゼルス人はたまたまバスで隣に座った人とも挨拶を交わし世間話をしていた。日本ではあまり見られない光景だったので新鮮だった。また、ロサンゼルス人は、パーソナルスペースも広いなと感じた。ある時、自分が道を歩いていたら前から人が歩いてきてすれ違う形になった。自分の感覚としては通路の幅はもう一人人が通るのには十分だと思っていたが、すれ違う際に相手が自分にExcuse me と言ってきてこちらの人と日本人とでは感覚が違うのだなあと感じた。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

私が今回の海外研修を通じて成長したことは積極性だと思います。今回、ロサンゼルスに行くまで私は海外に行ったこともなく、日本の常識の中で生きていました。しかし、今回の研修で異文化と触れることで広い視野を持つことができ、またいい意味で他人の目を意識しなくなった気がします。これまでは、自信が持てないことに対し、なかなか行動をできなかったり、授業中も手を挙げて発言したりすることは少ないほうでした。ですが、授業を受けたり色々な場所に足を運んだりして思ったことは自分から発信しないと人には何も伝わらないということです。これに気づいてから、私はほかの人に積極的に話しかけに行きました。例えば、路上で知らない人に道を聞いてみたり、ジムでトレーニングしている人に話しかけてみたりしました。最初は緊張しましたが、うまく出来たときは自分に対して自信が持て、次からは緊張もほぐれてきました。この研修を通じて得れたことは、ほかのものには代えがたいもので、大切にしたいと思います。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

私が今回の研修で得れたことは積極性です。これを今後の人生でどう活かしていくかということですが、自分が積極性を一番発揮すべき場面は人とのコミュニケーションだと思います。実際に、ロサンゼルスでは言語も文化も全く違う相手とコミュニケーションをとるのは難しく以前の自分であればきっと委縮してしまっていたと思います。しかし、(1)でも述べたようにそれでは相手に何も伝わらず自分の意見がない人だと思われかねません。将来、仕事をするにしても、勉強をするにしても人とのコミュニケーションがうまくいかないと生活自体が安定しません。なので私はこの研修で得たことを活かし、今後の学生生活では、意見交流の場で積極的に発言し、また人の意見にはきちんと耳を傾けられるような人になりたいと思います。それは短期間でなれるものではなく時間がかかることだと思いますが、研修の中で気づき学んだようにこれからの人生の中でも学び続けることで必ず達成できると思います。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等：UCLA Extension, American Language Center (ALC)

研修期間： 2019年08月25日（日）～ 2019年09月15日（日）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

モーニングクラスでは、**Academic** を選択した。内容は、ディスカッション、文法、熟語、映画の視聴、日常の英語、語彙について学習した。ディスカッションでは、様々な学問の話題について先生の指導のもと、グループやペアでディスカッションをした。文法については、私たち留学生の最も一般的な英語の文法の間違いを明確にし、実践と分析でその間違いを排除するため、教科書を用いて学習した。映画の視聴については、社会的に使用される熟語や俗語を実際に映画を視聴して体験した。また、ネイティブスピーカーの話し方やアクセントの付け方など映画を視聴して、リスニングを重視して学習を進めた。日常の英語を体験するために、ショッピングや旅行などの日常的な話題の会話を教科書や資料を用いてグループやペアになって練習した。また、アフタヌーンクラスでは、**Discover LA** を選択した。内容は、ハリウッドやベニスビーチ、ゲッティー・センターなどの美術館など、ロサンゼルスの名所を訪れ、そこで現地の人々にインタビューをするなど、実際に肌でロサンゼルス街や文化に触れる授業をした。最終的には、それらの経験をパワーポイントにまとめ、学校のウェブサイトやYouTubeに載せ発表した。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

滞在形態は、寮生活で、3人部屋であったが私と朝日大学が1人、計2人で生活していた。寮内はトイレや個室のシャワー、ランドリー、カフェテリア（食堂）など設備は良好だった。朝食と夕飯はほとんどカフェテリアで食した。カフェテリアは、バイキング形式になっており、自分の好きなものを好きな分食することができた。UCLA 内では、グラウンドではサッカー、体育館ではバスケットボールやバレーボールなど他にも様々なスポーツを気軽に楽しむことができた。また、ジムもあり多くの人利用していた。

現地の人と交流、または文化に触れて印象に残ったことは、日本とは異なり、男性、女性ともにスーツで出勤している人が非常に少ない印象を受けた。また、ドアを開ける際、自分が通った後でも次に通る人のことも考えドアを支えておく、また支えてもらった側は必ず「ありがとう。」とお礼をいうという常識、マナーがあり、とても良い印象を受けた。また、バスに乗車している際、見知らぬ乗客同士が気軽に会話をしており、皆フレンドリーであると感じた。このように、アメリカは日本よりも頻りに挨拶を交わしており、とてもフレンドリーである印象を受けた。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

研修以前は、物事に対し積極性に乏しく、自分に自信が持てないことが多かった。実際、研修前は、不安しかなかった。また、自ら英語を話すというスピーキングが苦手であった。その理由として、何かを英語で伝えようとすればするほど、そちらに意識が傾いてしまい、発音がおろそかになり相手にうまく自分の意思や思いを相手に聞き取りやすいよう伝えることが困難になり、自然と苦手意識が生まれてしまっていたからである。今回の研修でも、最初は買い物をすることや現地の人々とコミュニケーションをとることに臆病になっていたが、まず第一に発音を意識して話すようにしたところ、生活をしていくうちに自然と聞き取ってもらえる機会が増え、そのことにより自信が付き、日に日に現地の人々や先生とコミュニケーションをとることが楽しくなっていった。今回の研修で何事にも積極性を持って挑戦することや、自分の意思を持って行動していくことの大切さを学び、それを実践していくことができるようになった。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

今回の UCLA への海外研修で得たことを私生活や学生生活、就職活動、仕事など様々な場で活かしていきたいと考える。寮生活では、身の回りのことは自分でこなさなければならず、また、家族以外の人と共に良好に生活していくためには、その人の価値観や考え方を尊重し、互いが協調性を持ちながら生活していかなければならないため、今後社会へ出た際に仕事など様々な場面で相手を尊重すること、協調性を持つことが必要になると感じ、そのような場でも今回の寮生活で得たことを活かしていくことができると考えた。また、大学在学中に英語検定準一級以上、TOEIC 700 点以上取得することを目指しており、また、私が所属するゼミでは、英語でディスカッションをするという高い英語運用能力を必要とするため、そのような場でも活かしていきたいと考える。そして、海外研修という海外で生活をしたという経験は、一度経験すれば今後再び海外へ渡航する機会が訪れた際、今回の経験が役に立つだろうとも考える。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等：イギリス カンタベリークライストチャーチ大学

研修期間： 2019年8月17日（土）～ 2019年9月8日（日）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

私は英語は世界共通語なので英語を話せると会話できる人との幅が広がると思い、英語で実際にたくさん会話することを一番の目標にして取り組むようにしました。学校の授業では会話はもちろん、英文を読んで問題に取り組んだり、イギリスの文化について学ぶことができました。現地の学校の先生からの授業を受けることができたので、イギリス英語を実際に聞いてみると発音がはっきりしていて綺麗で聞き取りやすさを感じることができました。しかし話すスピードが速すぎると発音が良すぎて聞き取ることができないことがあったり、イギリス英語とアメリカ英語は同じものでも違う言葉で表していたものもあったので難しさも感じました。また単語の書き取りでも発音が同じでも書き方が違うなど、イギリス英語とアメリカ英語は同じものでも違う言葉で表していたものもあったので難しさも感じました。また単語の書き取りでも発音が同じでも書き方が違うなど、イギリス英語とアメリカ英語の違いもたくさん知ることができました。英文を読んで問題の取り組んだり、ゲームに取り組んだりするのは、楽しみながらも自分にとって必要な知識を得ることができました。休日の外出では学校よりも日常会話を使うことが多かったので、お店や観光地で現地の人と会話していきながら、日常会話を学んでいきました。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

現地では学生寮に滞在し、環境が整っていたので生活しやすかったです。しかし周りの留学生はホームステイだったのでホームステイの方が英語を会話する機会も増えるのでホームステイしたかったと思いました。生活しているときに一番大変だったのは気温差でした。日本では真夏でもイギリスは気温が日本より圧倒的に低く、一日中気温が低い日や、朝夜は気温が低くても、昼間は気温が急に高くなるなど気温が安定していませんでした。また、学校の授業でイギリス文化について学ぶ機会が多く、イギリスのパブやアフタヌーンティーなど昔からの伝統を大切にしている、それを街中で見る機会が多く、一人一人が伝統を大切にしている雰囲気や先生からの話や実際に現地の人の様子を見て感じ取れました。イギリスの博物館や美術館はほとんどが入場無料の場所が多く、イギリスが一番の展示の多さであったり、イギリスでしか見ることのできない展示品がたくさんあるのになぜ無料なのか疑問もあったけれど、誰でもこの貴重な展示品を見られるようにや、無料にいたるまでの努力や、そしてイギリスの人々の文化を大切に想う気持ちなどが含まれていると知り、とても印象強く残っています。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400字以上)

今回の海外研修で英語を話すことは世界中の人と話すことができ、世界の人と話すことによって自分の体験できない文化や生活を知ることができたり、新しい知識を得ることができると改めて感じました。英語を話すときも始めは聞き取れなかったり、自分の言いたいことをスラスラ口にするのが難しかったけれど、よく聞いていくうちに聞き取れるようになっていたり、分からない言葉は推測したり、自分で言葉のある程度考えてから会話をするなど工夫して、最初より成長できたところもありました。お互いの文化について学習するときには、日本の文化とイギリスの文化では違うところがたくさんあったけれど、どちらの国でも自分たちの文化の伝統を築いていたり、守ろうとする気持ちは変わらないのだなと実感しました。日本の文化を話すとき、日本の文化は有名で観光地や食べ物やアニメなど知られているものも多かったので、文化を伝えるために自分の文化についてもしっかりと知り、言葉にできることが大切だなと感じました。また、英語を話すことに全く自信を持つことができななかったけれど、自信のないまま話すと余計に伝わらないので自信をもって話すことも必要だと思いました。そして、海外研修で今後もっと外国の人と会話できるようになるために英語をもっと話したいという気持ちや英語の学習に対する意識も高まりました。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400字以上)

私は将来外国の人とも関わることでできる仕事をしたいと考えていたけれど、今のままでは夢を実現することは難しいし、外国の人と関わったとしても役に立つことができないと感じました。目標を達成させるためには思っているだけではなく、実践していくことが大切なので、学校生活ではネイティブの先生と積極的に会話をしたり、英語のどの分野もバランス良くできるように学習していきたいです。学校の授業では、文化の違いやイギリス英語とアメリカ英語の違いや、先生との会話を通じて英語で話すときの積極性や自信を持つことなど新しい知識を学び、普段の生活では現地の人々の生活の様子や日常会話を中心に学ぶことができました。海外研修で学んだことは将来外国の人に関わったときには会話のきっかけとしても役立てていきたいし、教師となった場合は自分が経験したことや学んだことを自分の生徒の伝えていきたいと思いました。そして最後の授業で先生から、たくさんある道から自分のやりたいことを早く見つけて、それに向けて努力することが大切と教えていただいたので、この留学で新たに学んだことや感じたことを忘れずに、今後の生活で生かして有意義な生活を過ごしていきたいと思いました。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等：イギリス、カンタベリークライストチャーチ大学

研修期間： 2019年8月17日（土）～ 2019年9月8日（日）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

まず、最初にスキル順でクラスを振り分けるために将来の夢についてのライティングと、先生の質問に答えるスピーキングのテストがありました。授業では、発音の仕方を学ぶことから始まり、睡眠や家計図、感情、教育、料理、そしてホテルなどの日常的に使うフレーズや単語を学びました。また、英単語をジェスチャーで相手に伝えるなどといった授業が多くあり、とても楽しかったです。リーディングをする際に気をつけるポイント、極限形容詞の種類と使い方、短い小説を書いてみる、文法などの授業もしました。また、カンタベリーについて調べたり、街の人にインタビューをしたり、ビールの原料のホップについての映像を見たり、ホップを摘んだりカンタベリーならではの授業もありました。私は、極限形容詞をもっと早く知り、しっかりと学びたかったです。なので、会話をする際に、極限形容詞を気にして使ってみようと思いました。また、日常会話で使えるフレーズについて学んだとき、知ってるフレーズもあったが、知らないフレーズが結構多くあり、まだ私も知らないことがたくさんあると思いました。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

私たちは、大学から徒歩15~20分くらいにある学生寮で生活しました。洗濯、掃除などさまざまなことを自分たちですら中で一番大変だったのが料理です。私は実家で暮らしており、料理を手伝うことはありますがこの長期間で献立を決め、食材を買い、料理を全部自分ですることはなかったので大変でした。日本の調味料が高く売られているため他のもので代用したり、その買った調味料や材料を余すことなく使えるか等の料理面が一番大変でした。しかし、ルームメイトのおかげで乗り越えられました。そして、この技術は一人暮らしをする上で必要な能力なので、寮生活はとてもいい経験でした。また、現地の人と交流をして思ったことは、学校でも街でも困っている人に声をかけてくれる優しい人がたくさんいる印象ができました。助けてくれると言ってもただ求めていた行動だけではなく、他にも情報をくれるなど丁寧に助けてくれる人が多かったです。例えば、オススメのお店を知りたい時、お店の名前を教えてくれるだけではなく、場所の地図を書いてくれたり、オススメの料理を教えてくれたり、写真を見せてもらったりしてくれました。このように親切にされるたびに胸が熱くなり、私もこのように優しく助けたいと思いました。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

海外研修を通じて感じたことは、何でもいいから話して伝えることが大事だと思いました。文法を間違えてしまうことを恐れたり、単語がわからなくてもジェスチャーなどで伝える努力をすれば相手も私たちが伝えたいことを汲みとってくれるので、何も話さないよりはとにかく伝えることが大事だと思いました。しかし、考えはあって、話してみたけどしっかりと伝わったかわからずモヤモヤすることが何度かありました。なので、文法も大事だと思いました。また、イギリスでは極限形容詞を多く使って話している印象があり、極限形容詞を知っていると会話があまり弾まないと感じました。そして、外国の方と話すときに日本について幅広く質問されることが多くありました。私は勉強不足でわからないと答えてしまったことが多くありましたが、それに比べて他の人たちは自分たちの国の政治や歴史、文化などをしっかりと理解しており、その上、日本の歴史や政治なども把握しており驚いたとともに、自分がいかに勉強不足か思い知らされました。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

まず、外国に行くとき必ず日本のことについてさまざまなことを聞かれます。そのため、自分の国の政治や歴史、文化そして流行について幅広い知識を身につけてはいけないと思ったので、ニュースを注意深く聞いたり、本をたくさん読もうと思いました。また、自分の国だけではなく、海外のニュースや流行なども知っておくと会話のレパートリーが増えると思うので、そこにも気にして生活をしたいです。また、積極的に話したいと思いました。スピーキング力を上げるにはやはり経験が多ければ多いほどよいと思うので、今まで以上に発言をしたり、MPPEC を活用したいです。MPPEC で日本人と英語で話すのもいいのですが、ネイティブの先生と会話をしたり、SNS などで外国人の人とゲームをしたりすると自分が知らない新しい単語やフレーズが学べると思うので、積極的にコミュニケーションをとっていきたいです。また、リスニング力を上げるためには英語で映画を見るのもいいのですが、英語で Youtube などを見ることにより、よりカジュアルなしゃべり方をきいたりでき、簡単にいつでも見れて、なおかつ海外のことも知れると思ったので、これから積極的に英語で Youtube を見ようと思いました。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等：中国 北京師範大学

研修期間： 2019年8月3日（土）～ 2019年8月25日（日）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

北京師範大学での授業の内容は、おもに教科書を使用しての会話の授業だった。毎日授業の初めに小テストをしたので、そのために前日の午後に範囲の単語を復習した。毎週金曜日には、大テストがあったので1週間のまとめ復習もした。1限から4限まであったが、1.2限に学んだ範囲の復習を3.4限にやったので、1.2限に分からなかった内容が3.4限に分かるようになるので、分からないまま授業が終わることがなかった。しかし、教科書の単語は半分が読めなかったり、単語の意味が分からなかったりしたので前日に分からない単語、ピンインを調べるなど予習が必要だった。1.2限はおもに会話の練習、会話の意味を理解する授業で、3.4限は単語の読み練習や学んだ文法を使っての会話練習だった。予習をしなければ分からない単語も多く、北京師範大学の授業で初めて知った単語もとても多かった。テストは筆記問題と、先生との1対1の会話のテストもあった。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

中国留学期間は、北京師範大学の敷地内にある寮で生活をした。午前中には授業が終わったため、お昼ご飯は食堂で食べたことが多かった。移動手段はたいていがバスを使い場所によっては地下鉄を使用することもあった。バスで現地の人と合流することもあった。日本人が珍しかったのか話しかけてくれる現地の人もいて、とても嬉しかった。電車に乗っている時も携帯を後ろポケットに入れておくと盗まれるよ。と教えてくれたり、夜ご飯を食べに行った場所で値段を少し安くしてくれたり現地の人がとても良くしてくれてすごく優しい人が多いと感じた。北京で1ヶ月生活してみて、やはり日本との違いはたくさんあった。中国の公共交通機関は日本と比べあつという的に安くとても利用しやすかった。食べ物も基本的には日本よりとても安くとても驚いた。あと、バスや地下鉄を乗って気づいたことはやはり人が多いと感じた。道路を見ていると車はとても多く、信号がない横断歩道を渡るのに苦労した。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

北京留学の期間は 3 週間とあまり長い期間ではなかったけれど、行って良かったと強く思う。正直、普段の生活は北京留学にいる間よりも予習や復習をやっていなかった。でもこの北京留学で予習や復習の大切さにあらためて気づいた。やればやる分だけできることがよく分かった。あとはやはりその国に行って文化や歴史などに触れることは大事でそれを学んだ上で中国語を学ぶと学ぶ前よりもっとやる気が出た。留学前とでは印象がが大きく変わった。行く前はニュースで見る中国しか知らなかったけれど、やはり行ってみるとまったく違う、良い人もとても多く、良い印象へと変わった。ニュースだけを見て中国はこういう国だと決めつけるのではなく、どの国にも言えることだけれど行って自分なりにどういう国なのかなど知ることとても必要だと今回の留学で分かった。研修前よりもっとさらに中国のことを知りたいと思ったので、これからも中国語だけでなく文化や歴史なども学んでいきたい。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

勉強の面では、予習や復習の大切さをあらためて分かったので今後のどの授業においてもしっかり予習、復習をしていきたい。せっかく現地で現地の人に中国語を教えてもらったり、会話をしたりやはりまったく発音が違った部分もあった。現地で学んだことをこれからの大学の授業にしっかりと活かしていきたい。まだ中国語を学び始めて 1 年半しか経ってなく、将来仕事に活かせるかという不安も多いが、あと 2 年半卒業するまでにどこまで中国語の能力を高められるかが 1 番大事だと思う。今、中国人の観光客もとても増加していて中国語が話せるというのは就職活動にもとても有利になると思う。有利になるためにはもっと多くの単語を知ること、正しい文法で会話をできるようにすること、あとは語学だけでなく中国の文化なども知ることがとても必要になってくると思う。やはり将来中国語を活かして仕事をしたいという夢があるので、その夢を叶えられるように残りの大学生活で中国語能力を高めていきたい。

以 上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等：北京師範大学
研修期間： 2019年8月3日（土）～ 2019年8月25日（日）
1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上） <p>大学での授業では、文法や新出単語などの明海大学で受けている講義と同じでしたが、教科書の内容や授業の進め方が実践的で日常会話に役立つような表現方法を多く学ぶことができました。</p> <p>明海大学の講義よりクラスメートや先生と会話をする機会が多くコミュニケーションスキルが上がりました。毎週金曜日に1週間の授業の復習テストがありました。最初はとても面倒くさく思っていたのですが、テストのおかげで一週間の講義を吸収できました。</p> <p>そしてクラスメートの中にはイタリア人や、韓国人の留学生もいて中国以外の文化にも触れることができました。いろいろな国の留学生がいるので先生も授業中に生徒たちが分からなそうにしてると丁寧に解説をしてくれます。しかし、解説を英語でするので、僕は、余計に内容理解に苦しみました。そこで改めて海外を視野に入れるなら英語は、少しでも話せる方がいいと思いました。ですが、クラスメートの外国の人とお互いにつたない中国語で会話する中で距離も縮まり自分のスキルアップにも繋がりました。</p>
2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上） <p>北京留学で驚いたことがたくさんあります。一つ目は物価の安さです。公共交通機関でいえばバスでどこまでいっても1元（日本円で16円くらい）でした。往復でも日本円で40円でした。食に関しても贅沢をしなくても日本円で200円くらいで一食食べることができます。僕は喫煙者なのですがたばこも日本の半額くらいで買うことができとても助かりました。二つ目は、日本との文化の違いです。僕はファッションに興味があるので、中国人の若い人の服装をよく見るようにしました。すると、日本の若い人との違いが二つありました。それは、色の使い方とタトゥーに対する価値観の違いです。中国の若い人は色鮮やかな洋服をよく着ていて、自分の個性を前面に表現していました。タトゥーに関しても日本人がピアスやネックレスをするように中国の若い人のあいだでは、ファッションアイテムの一つとして考えているように見えました。中国の人は、いい意味で周りの目を気にしていなく、自分を表現するのが上手いと思いました。</p>

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

今回の北京留学は 3 週間と短い時間でしたが、同じ時間日本にいたら知らなかったこと気づかなかったこと分らなかったことがたくさんありました。成長したことで言えば、確実に中国語スキルがあがりました。実際に現地の人と話していく中でよく日常会話で使う言葉を知ることができまだまだボキャブラリーの少ない僕の中国語でも注文ができるようになったり、質問もできるようになりました。自分の中国語が現地の人たちに通じると、とても嬉しくもっと話せるようになりたいとこれからの勉強にも意欲が増していきました。感じたことは、上でも書いた通り文化の違いです。日本人は、みんなと一緒に、人と違うことをすることに抵抗があるように感じます。それに比べ中国人は自分をしっかり表現しているのびのびしているように感じました。僕もかなり自分の心のままに生きてきたつもりですが、どこか他人と合わせていたところがあります。研修を通してもっと自分のしたいことを積極的にしていこうと思いました。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

来年また留学に行きたいと思います。次は 1 年間の長期留学に行きたいです。今回の研修で痛感した自分の中後スキルの低さを日本にいる間に少しでもあげられるように大学での勉強はもちろん、今までほぼしてこなかった家庭学習をするようにします。研修中に予習復習の大切さも学びました。30 分でもやるだけでも長い目で見たら必ず力になると思うのでまずは習慣をつけることから始めようと思います。将来も日本で中国語に携わる仕事がしたいと思っていましたが、少し考えが変わりました。中国で現地の人から刺激をもらいながら仕事をするのも悪くないなと思いました。もし僕が現地の人と問題なくコミュニケーションをとれるくらい中国語が上達すれば日本で働くとしても中国で働くとしても最大の武器になることは間違いないとおもいます。その可能性を無駄にしたくはないので残りの大学生活では、自分のプラスになると思ったことには、積極的に取り組みたいと思います。

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等：シンガポール

研修期間： 2019年8月26日（月）～ 2019年8月31日（土）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

まずシンガポールに着いた初日は添乗員さんが、シンガポールを案内してくださいました。シンガポールはほんとに様々な国籍の方がいるようで、それぞれの宗教のお寺などがありました。またIR（統合型リゾート）にも実際に行かせていただきました。いままで、「カジノ」と聞くと、あまり良い印象を持ちませんでしたが、実際に行ってみると、そこで会議などをする人がいて、ショッピングモールで息抜きをしたりできる施設でした。イメージとはだいぶ違いました。シンガポールは近くの国から水を買っていますが、何かあって買えなくなってしまった時のために、水をきれいにしている施設がありました。そこには日本の会社の技術が使われていました。アルビレックス新潟の方のお話では、海外で働くべき理由について話してくださいました。シンガポールは日本と比べるととても小さい国ですが、とてもビルやホテルなど高いものが多く、発展しているのが目に見えて分かったように感じました。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

派遣先では昼、夜と自分たちで食事をとりました。最終日以外の昼食は連れて行ってくれた場所でご飯を食べる形でした。まず驚いたのが、メニューのほとんどが中国語がメインで書かれていたことです。シンガポールは発展している国だと聞いていたし、もっと英語がメインなのかと思っていたのでとても衝撃を受けました。メニューが中国語だったため、その料理がなんなのかわからないことが多く大変でした。しかし、お店の方は英語で話してくれたので良かったです。研修が終わった後は、観光をしました。電車を使っていろいろな場所へ行きました。シンガポールで切符を買うと日本と同じような紙の切符が出てきますが、この紙で日本でいうところのSuicaと同じようにピッとでき、さらには3往復分まではその紙にチャージをすることができました。路線は海外だから難しいのかと思っていましたが、日本の地下鉄のが複雑に感じたためあまり困ることなく電車に乗って観光を楽しむことができました。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

私は今まで、日本国内で働くことしか考えていませんでした。それに、国内の会社に就職したら海外とは無縁だと思っていました。今回の海外研修で、海外で実際に働かれている方々の話を聞くと、皆さん海外に出ることにあまり不安を感じず、それ以上に「やってやるぞ」くらいの方が多かったように感じます。私は、英米語学科にいますが、自分の英語力には全く自信がないし、授業やテストで文章にすることができても、いざ会話となると、うまく話さなきゃ、と思ってしまい言葉に詰まってしまいます。そのため、海外で働くことは全く視野にも入っていませんでした。しかし、今回の研修でお会いした、海外で働いている方々はとてもキラキラしていてカッコいいと感じたし、自分もそうなれたらなと思いました。JETROなどは、海外から日本への輸入、またはその逆のパターンだったり、他国と日本の架け橋になるような仕事だなと思いました。私は日本が大好きでその日本と海外との架け橋になるような仕事につけたらなと思いました。研修を終え、私の仕事の視野が広がりました。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

もし日本の会社に就職したとしても、海外の部署に行ったりする場合があると思うので、もちろん英語の勉強は頑張ろうと思いました。文法などもそうですが、やはりそれ以上に話せないと意味がないので、Integrated Englishの授業でもっと英語を積極的に使おうと思います。あとは、エムペックも活用していこうと思います。前期は忙しくてあまり行けなかったのですが、せっかくの良い施設があるので後期は友達を連れて行き英語を使う時間を増やせたら良いかなと思います。またもっと視野を広く就職先を考えようと思います。自分の興味のある会社だけでなく他にも、世の中には沢山の会社、仕事があるのでもっと色々調べたいと思います。またその会社に海外の部署があるか、そこまで調べていけたらと思います。自分に出来ることだけ考えていると狭い世界で終わってしまうし、私は今回の研修でもっと広い世界で活躍出来るような人になりたいと思いました。自分が出来る範囲からかなり勇氣はありますが、一歩踏み出して、広い世界で活躍できるような自分になれるようにこれから頑張っていきたいです。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等：シンガポール

研修期間： 2019年8月26日（月）～ 2019年8月31日（土）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

このシンガポール研修では、マーライオン公園、マリーナベイサンズ、アルビレックススタジアム、シンガポール社会科学大学、ニューウォータービジターセンター、リゾートワールドセントーサなどを見学しました。その他に JTB や JETRO、アルビレックス新潟の職員やサッカーチームの選手からお話を伺いました。個人的に、JTB と JETRO の方々のお話が印象的でした。実際に現地で働く方の生の声を伺ってみて、シンガポールは独立わずか 50 年で日本を追い越すほど経済が急成長していることが分かりました。東南アジアのハブでありながら資源は意外にも少なく輸入に依存していることに驚きました。また、サービス主体の経済を支えているのが、シンガポールの最大の資産である人材で、教育への投資に力を入れていることも分かりました。小さい頃から受験があり大変だと思いましたが、教育に力を入れているからこそ、優秀な人材が育ち、経済発展に繋がるのだと考えました。多民族国家なためバイリンガル、トリリンガルは当たり前なことにレベルの高さを感じました。一方、急成長の裏で急速に少子高齢化が進むなど課題もありました。シンガポールの現状や魅力について詳しく知ることができて良かったです。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

約 1 週間滞在してみて、多民族国家だからこその特徴が 2 つありました。1 つ目は各民族が集まれる場所があることです。街を歩いていて聞こえてくる言語は多民族国家と実感するほど本当にさまざまでした。インド街やチャイナタウンなど各民族が集まれる場所があり、1 つの国なのに多文化で不思議な感覚になりました。2 つ目は祝日が多いことです。多民族国家のため、各民族の宗教が関係して行事が開かれるそうで楽しそうだと思います。また、建国記念日の旗が道路にたくさんあったのですが、主に 4 つの言語が使われているため 4 カ国の人々がついていました。日本では感じることのできない感覚を味わえて楽しかったです。他に思ったことはまだあります。それは街が綺麗なことです。ガムのポイ捨てで罰金が発生したり、緑を増やすために木を植えていたりしているため、街がとても綺麗でした。そのためか車も汚れていない印象でした。そして、滞在中 1 番感じたのは現地の方々がとても優しくなったということです。食べ物を注文する際、まだ私の語学力では会話が最後まで成り立たず苦戦していました。その時現地の女の子が手助けをしてくれ無事食べられました。その他の場所でも、質問したときに優しく答えてくれる人ばかりで嬉しかったです。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400字以上)

このシンガポール研修を通じて、自分から積極的にコミュニケーションをとれるようになったことが成長できたところだと思います。私は中国語を学習して1年半の状態でしたが、失敗を恐れずとにかく中国語を使って現地の人と話すことを心がけて生活しました。自分の語学力が現地でどのくらい通用するのか知りたかったからです。以前、台湾研修に参加した際、初めての海外ということもあり緊張してあまり話すことができなかつたので、今回は自信を持ってコミュニケーションをとることができて良かったです。現地に実際に行ってみると私の語学力には限界があり、うまく気持ちを伝えられずもやもやしたり、英語を使う場面でも苦戦したりしましたが、それでも色んな人と話したため自信に大きく繋がりました。いくら机とノートと向き合っても、語学はどんどん話してこそ活かされると強く感じました。研修に行く前よりも、中国語と英語の勉強に対する意欲が高まりました。今回の研修でシンガポールについて詳しく知ることができて毎日が刺激的でした。参加できて本当に良かったです。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400字以上)

今回の研修で高まった中国語と英語の勉強に対する意欲を今学期から勉強に活かしたいです。また、研修で成長できた部分であるコミュニケーション力を、学校生活だけでなくバイト先などでも活かしたいです。このコミュニケーション力は、自分から積極的にコミュニケーションを相手ととることでは自信はつかないと思います。ですから、今から意識して、語学も向上させて、自分に自信をつけたいです。それが就職活動や将来の就職先での自信に繋がると考えます。現地に行って、中国語と英語どちらも使いこなせないと海外の人とのコミュニケーションは難しいと思ったので、中国語のほかに英語にも力を入れていきたいです。学習したことを使えるようにするために、学校にいる中国人の先生やアメリカ人の先生と会話する機会を増やしたいと思います。来年はオリンピックがあり海外の人がたくさん来日して会話するチャンスが増えると思うので、失敗を恐れず、どんどん話すことを目標にして今から頑張りたいです。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等：オーストラリア シーキューユニバーシティ

研修期間： 2019年8月17日（土曜日）～ 2019年9月7日（土曜日）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

授業内容は、日常生活でよく使う英語や視察場所に関係するものを学びました。また、自身についての情報や研修先で休日をどのように過ごしたかを話す場面もありました。このとき、学生全員が席を立ち上がり、沢山のペアを作りながら話しました。授業は、聴く授業だけではなく、話すといったアクティブな活動もあったため、充実していました。また、午後2時から始まる自由研修では、大学施設付属のプールに行き泳いだり、絵の具を使い「アボリジニの歴史」に登場する絵を模倣しながら描いたり、オーストラリア国土の形に近づけたパンケーキも作りました。午前中、みっちり英語を学んだ後の自由研修はとても良い息抜きでした。

視察内容は、オーストラリア先住民「アボリジニ」が使用していた道具や世界遺産の「グレートバリアリーフ」にあるサンゴ礁を見に行きました。アボリジニは、狩人で武器を使い獲物を捕らえることで知られています。中でも、彼らはブーメランを使用していたことから、今日のロックハンプトンでは、至るお店でブーメランのキーホルダーが販売されていました。グレートバリアリーフは、とにかく海がきれいで、亀やオオシャコ貝、サンゴ礁など、はっきりと見ることができました。オーストラリアでは、これらの遺産を守るべく、農薬使用の制限や環境汚染に繋がるものを排除しています。オーストラリアのきれいな海は、水を大切にする文化が著しく表れていました。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

私のホストファミリーは1人暮らしで、私も1人でホームステイだったため、2人で生活していました。家には2人しかいないため、お互いのことを話す機会が多かったです。そのため、私は、早い段階でホストマザーのことや家庭内のルールを知ることができました。休日には、私のホストマザーが、私1人でホームステイしていることから、他に1人でホームステイしているファミリーたちと合流するきっかけを作ってくれました。また、私とホストマザーと一緒にホストマザーの身内の方、友人、隣人の家に挨拶に行くことやホストマザーの身内の方が自宅に（私のホームステイ先に）来て、一緒に食事を取ることもありました。現地の方はみんな優しく私に接してくれました。しかし、現地での話し方は日本と違い、話に参加している人だけと会話をする傾向にあります。アイコンタクトも同様で、日本のような会話に参加しない人に話を振るといったことはありません。なので、自分から話に参加しなければ何も始まりません。下手な英語でも懸命に伝えることで、相手は真剣に受け入れてくれたり、ポジティブな言葉で返してくれます。

どれも、ホストマザーが私1人のために、素敵なプランを考えてくれたと思うと、感謝の言葉しかありません。オーストラリアに行く前は、1人でホームステイすることを知って不安でしたが、今では、1人でホームステイできて良かったと感じています。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

成長したことは、相手に物事を本音で伝える力が向上したことです。その力が向上したのは、ホームステイ先にてのことでした。以前の私は、相手を思いやる一心で本当に言いたいことを遠回しで言ってしまう癖があり、本音をはっきりと行うことができませんでした。そのため、話の方向性がずれることもありました。しかし、オーストラリア人は本音を堂々と話すことが当たり前なので、私のような話し方では彼らに注目されません。ましてや、私は、1人でホームステイでしたので、着実に自分の気持ちを伝えることが必要とされました。そこで、私は、ホストマザーに本音をはっきりと伝えることに心がけました。具体的には、ホストマザーが作ってくれる食事がありました。私は野菜が嫌い、マザーが作ってくれる食事に、よく野菜が混入していることがありました。野菜といっても、生の野菜ではないため、私は食べられないということはありません。ですが、ここでこの野菜が嫌いと言わなければ、この先も同じ野菜がでてくるだろうと思いました。マザーがせっかく作ってくれた食事なので、私はマザーに「嫌いだ」と言いづらかったのですが、オーストラリア人のように堂々と話す姿勢を見習って、「この野菜は嫌いだ」と言いました。そしたら、マザーは優しく「OK」と返事を返してくれて、この先、その野菜が出でくることはありませんでした。本音を言わないよりも、言った方がマザーに思いやりがあると言えます。それ以降、私は、マザーの料理に付き添い、食べ物の好き嫌いをその場で伝えました。また、料理に付き添うことで、その場にある食べ物や調味料など、味見することができ、マザーとの会話も広がります。

大事なことは、自分の欲求を認めて、今、何がしたいのか、何をしてもらいたいのかを、まずは試してみるということです。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

相手に物事を本音ではっきりと伝えることは、日本では失礼に当たることが多いように感じます。日本に帰国してから数日経過し、私はそのことを実感しました。私は、研修で身につけたスキルを活かすためにはどうすれば良いかを考え、出た結論は、その物事の言い方に気をつければ良いということです。今となって気が付いた点は、オーストラリア人は、ただ単に物事を本音ではっきりと行うだけでなく、その言い方に思いやりがありました。ですが、ときには相手に本音を言い過ぎて反感を買うこともあります。ただ、私は、相手から反感を買うことを恐れて黙っているよりも、相手と本音で話せる人になりたいです。より相手と友好的な関係を築くために、オーストラリア人のような思いやりのある言い方を心がけようと思いました。

私は、明海大学経済学部ゼミ連合会に所属しています。この会は、各ゼミ代表者2名が出席し、学園祭間近にプレゼンテーション、ポスターセッション、ディベートの実施企画を考えています。私はプレゼンテーション実施担当ですが、他の2つの担当の人たちとも話し合いをしています。今まで、私はみんなと話が食い違うことを恐れて、大して発言はしていなかったのですが、これから発言数を増やそうと思います。また、発言に思いやりを込めて、他の2つの担当の人たちとの関係も友好に築き上げたいと考えています。

就職活動では、企業の面接で、物事を本音ではっきりと伝えるスキルを活かしたいと思います。以前に、ある企業のインターシップに参加したとき、プログラムの一環として、模擬面接を行いました。その際、私は面接官に声が小さい、もっと自信を持って話しましょうと指摘されました。このとき、私は、面接で話す内容がまとまっていないことが原因と考え、自分の臆病な性格が原因ではないと逃げていた部分があります。ですが、今では、企業の面接を受ける際、面接官に研修のことや、研修で自分が身につけたスキルのことを堂々と話せそうです。

今回の研修で私が得たものは大きいです。それは、外国の文化を理解し、外国の生活を覗き、沢山の外国人と触れ合い、また、明海大学の同級生や先生方とも楽しく過ごすことができました。一生に一度しかないくらい貴重な研修3週間を過ごすことができました。私は、この経験を活かし続けたいと思います。

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等：オーストラリア CQUniversity

研修期間： 2019年8月17日（土）～ 2019年9月7日（土）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

今回の海外研修ではロックハンプトンにある **Central Queensland University** で授業を行いました。授業は全て英語で、話したり、聞いたりして学ぶことが多く、実践的で毎回の授業を楽しく学ぶことができました。ゲーム形式で行ったり、週末の出来事を英語で友達に説明し、共有したりしました。

自分自身、聞き取りはある程度できたのですが、自分の思っていることを相手に伝えることが1番難しかったです。正しい文法で文章を作り、それを相手に伝えるのが難しかったので、とにかく自分なりに単語を並べて伝えるようにしました。担任の先生が優しく接してくださり、わからないことはすぐに聞いて、その場で丁寧に教えて頂いたので、良い環境で学ぶことができました。

Dream Time や **Heritage Village** では昔のオーストラリアの生活や文化、民族などについて知ることができました。アボリジニの人たちはブーメランや様々な武器で狩りをして、食料を調達していたと聞き驚きました。実際にブーメランを体験することもでき、とても良い経験になりました。

また、グレートケッペル島やカプリコーンケープス、クーベリーパークなどに行き、シュノーケリングやアブセーリング、洞窟ツアー、カンガルーなどへの餌やりも体験しました。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

私は3週間ホームステイで過ごしました。最初は言葉や食事など、日本とは違うことがたくさんあったのでとても不安でした。しかし、ホストファミリーの方が優しく接してくださり、その不安も2日も経てばなくなりました。食事もとても美味しく、毎日の夕飯を楽しみに帰っていました。夜は、ほぼ毎日のようにホストファミリーとカードゲームをして、最初は全然勝つことができませんでしたが、最後の夜は勝ち越すことができ、とても良い思い出になりました。

3週間の間でグレートケッペル島やカプリコーンケープス、ショッピングモールやスーパーなどたくさんの場所に行きました。その行く先々でインストラクターの方、店員の方、一般の方、多くの方が声をかけてくださり、時には助けてくれることもありました。そのおかげで英語があまり話せない自分でもコミュニケーションをとることができました。今回の研修で本当にたくさんの人が良くしてくださり、毎日楽しく過ごすことができました。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

今回の研修に参加して強く感じたことは、初めてやること、今までと違ったことに対してまずはチャレンジしてやってみることが大切だと感じました。

3 週間の間、日本から離れてオーストラリアという国で生活してみて、初めてのことや、違うことだらけでした。最初は積極的に行動することができませんでしたが、少しずつ積極的に行動できるようになり、最後の方にはできることは全てやりたいと思うようになっていました。やってみたら意外とできることや楽しいことが多く、時にうまくいかないこともありましたが、その時には周りの人が支えてくれたり、助けてくれたりしたのでやりたいことは悔いなく、全てやって帰ってこれたと思っています。

今までは頭ではわかっていたものの、日本ではやらなくても済んでいたことが多かったので、今回の研修に参加して色んなことに挑戦し、たくさんすることに気付くことができ、経験できたことをとても良かったと思います。また、新しい自分の発見や、自分の強みを再確認することができたのも良かったです。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

今回の研修でたくさんのことを経験し、感じることができ、参加できて本当に良かったと思います。

まずは、10 月にある TOEIC の勉強を頑張り、少しでも良い点数を取れるように努力したいと思います。

また、就職活動も本格的に始まり、自分は何がやりたいかはまだ決まっていますが、少しでも興味がある業種や気になる企業を調べたり、実際にインターンシップに参加するなど積極的に行動していきたいです。

自分の将来を決める大事な時期だと思うので、悔いの残らないようにしたいと思います。卒業して社会人になれば環境や周りの人も大きく変わると思うので、スタートから果敢にチャレンジできるような社会人になれるように準備していきたいです。

学校生活や部活動、プライベート、アルバイトなど、大学生活も残り 1 年半くらいなので、研修で経験したこと、感じたことをこれからの私生活に活かしていきたいと思っています。

今回の海外研修に行かせていただいたことに、とても感謝しています。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等：シンガポール

研修期間： 2019年8月26日（月）～ 2019年8月31日（土）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

今回初めて海外に行って企業訪問やシンガポール社会科学大学などについて英語で説明されたので英語が慣れてない分聞き取るのが難しかったですが行くことが出来ただけでも良かったと思っています。またアルビレックスシンガポール様の話で海外に出ることによるメリットやデメリットを聞いて良かったです。たくさん参考にできそうな部分や共感できる部分がたくさんありました。海外に進出したプロのサッカーの選手の方にも海外と日本の違いを聞くことが出来たので良かったです。年が近いということもあったので自分的にはものすごく為になるようなお話を聞くことが出来ました。JETRO や JTB の方の講話を聞いて思ったのはシンガポールという国ではあるがいろいろな多国籍の方がいるのだと分かりました。例えば中国人、韓国人などです。しかし、なぜ様々な国の人達がシンガポールに来るのかと聞いた時疑問に思いました。その答えはシンガポールはビジネスがしやすい国の一つであるからです。自分はそれを聞いて理解することが出来ました。本当に今回為になるようなお話をたくさん聞いて良かったです。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

海外に行く前は英語ができなければきついのではないかなど誰しもが思う不安な気持ちはありましたが実際に海外に行って現地の方と交流して思ったのは、英語が例えそんなにできなくてもジェスチャーでも外国人の方と会話することができるのだと感じました。ただ英語で話せる部分は話すことができました。また英語で会話した中で感じたことが一つあります。それはもっと英語ができるようになったら外国人の方と会話するのが楽しくなるのではないかと思ったことです。そのおかげでもっと英語を勉強したいと強く感じました。また外国人の方は優しい人が多いという印象が見受けられました。何か分からない事があったときに聞いたりすると面倒な感じは一切出さずジェスチャーなどで快く教えてくれました。本当にシンガポールはいい国だなと思いました。6日間の中での短い期間での生活でしたが自由時間ではたくさんの場所を観光することができたので今回行くことが出来て良かったです。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

海外に行ってやはり自分の中で一番大きく成長したと感じたのは英語力を少しでもアップさせることが出来たことだと思います。海外研修の授業を受けている時はとりあえず海外にいて自分の目で見る事が出来れば満足するのではないかと考えていました。ですが実際海外に行って外国人の方達と話して感じたのはもっと英語力を上げたいという思いとシンガポール以外にももっとたくさんの他国に行ってみたいと感じました。海外に行く前はこんな気持ちは一切なかったので自分でも驚きました。こういうような経験するのは本当に大事だなと感じました。そして海外に行くという経験が出来たことで自分自身の自信にも繋がりました。大学に入学した頃から海外に行くという目標がずっとあったので現在 3 年生になってから達成することができて良かったです。今回海外に行ったことで自信を持つことができたのはかなり大きい事だと感じています。また海外に行く機会があれば必ず行きたいと思っています。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

海外に行って自信を持ったことは今後学校生活のいい方向として影響してくると思います。特に現在自分は 3 年生なのでこれから就活があります。大変だということは自分自身でも分かっていますがなぜか乗り越えられる自信があります。自信を付けることでこんなにも見える世界が違ふのだと感じました。また今までは英語から目を背けてきましたが少しずつでもいいので勉強していこうと思います。海外で仕事をしてみたいというまでではありませんが将来また海外には行きたいです。また今回授業で知り合ったメンバーとも一緒に海外に行き行動を共にして少しでも仲を深めることができたので良かったです。海外に行くという挑戦を今回することが出来たのでこれからもまた違ふことでいろんな事に挑戦していきたいです。今回の海外に行けたということはかなり大きいことなので本当に自分の人生の中で良い経験になりました。残り 1 年半の学校生活を有意義に過ごせるように頑張ります。

以 上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： シンガポール

研修期間： 2019年8月26日（月）～ 2019年8月31日（土）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

シンガポールは小さな島国で多国籍の人々がいて、経済発展して成長している国である。海外研修に行く前はどんな国で何があってどこに位置するのか全くわからなかった。マーライオンがシンボルということぐらいしか知識がなかった。研修先に決まり、研修の授業で勉強していくうちに少しずつシンガポールについて理解してきた。日本と比較して、色々な資源を輸入に頼り国の発展につなげている。国土面積も本当に小さいのにもかかわらず、カジノやホテル、ショッピングモールが1つになっている複合施設、IRなど最先端の事業など進んでいる。日本にはまだないものもたくさんあり、すごい国ということがわかった。シンガポールは埋め立て地が多く、面積拡大をしている。リゾート地であるセントーサ島や、マリーナベイサンズなど観光客も多く訪れて面白い国ということも勉強になった。聞くよりも一度見に行ったり、体で感じた方が迫力がありスケールの大きさに感動した。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

自分自身人生で、2度目の海外経験だった。初めての海外は家族旅行で行ったハワイで、そこは日本人がたくさんいるので、英語をほとんど使わずとも会話が成立した。なので、英語で話してコミュニケーションをとるということは、実質初めてだった。自分は、英語をほとんど話せないが、知っている簡単な単語で意外に伝わるのがわかった。文をつないで、スピーキング、リスニング共にできればいいが、初めは単語やジェスチャーで互いの気持ちを理解し合えるのは、何だか素晴らしいものだなと嬉しい感情になった。現地の人と交流をして、温かい人もいれば何だこの人と思うような人もいて、面白いなと感じた。日本でなくとも、親切な人だなと思う人はすぐにわかる。そして一つだけ理解したのは、一番のコミュニケーションは世界共通、笑顔であるということ。感じの良い人は笑顔が多いなと思ったし、笑顔で対応されたらこちらも笑顔でキャッチボールしたくなると気付かされた。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

海外研修を通じて成長したことは、人との関わりを大切にしようと感じたこと。研修を行うにも引率してくれた先生や JTB の方、初対面の学生や現地の人達、どこに行っても何をしても人と繋がらなければ成り立たないことだなと感じた。普段何気なく生活していても多分気付かず、感じることはできなかったと思う。後は、コミュニケーションを自らとるということ。自分の性格上、自ら人に話すことがあまり出来なかったが、この海外研修に参加したことにより、会話が増えた。人から待つのではなく、自分からアクションを起こせるようになった。そうすることで最初に述べたように人との関わりを感じられる。これから社会人となっていく上でも、コミュニケーションが一番求められていくものなので、学生のうちに色々なことを経験しておくことが重要だと思う。研修前と比較したら、行った後の方が人間的にも少し変わった気がするので、この研修はとても良い経験となった。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

この海外研修で得たことを将来に活かしていくか。将来的に海外でやりたいことをしたいというビジョンがあるので、それについて今回の研修で再確認することができた。研修でアルビレックス新潟シンガポールの企業訪問した際、海外に出る理由などの説明を聞いて実際にサッカーを通じて仕事にしている選手や会社の人を現場で見てこうなりたいと思えた。自分も同じサッカーをやっていて、海外で活躍したい、サッカー選手を仕事にしたいと思っているので、その成功例を目の当たりにして自分にも可能性はあると感じた。どんな理由であれ、若いうちに世界を跨ぐことも重要なことで、失敗しても大きな経験値となる。今回の海外研修の企業訪問の中で一番興味深い内容で、とても自分のプラスとなれた経験だったと思う。今後の学校生活でも、より海外で仕事をするということに関心を持てたので、海外ビジネスや言語など目に通したり耳にしたり、少しでも自分の力に変えていけるように学校生活を有意義なものにしたいと思った。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等：イギリス ケンブリッジ大学

研修期間： 2019年9月1日(日)～ 2019年9月10日(火)

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

一日目と二日目のロンドンでは観光が中心でした。有名な建物や大きなショッピングモールなどを見学し、イギリスの建築文化や歴史について学びました。

三日日以降は最終プレゼンの課題場所であるCB1再開発地区・ケンブリッジサイエンスパーク・トランピントン牧草地の見学と座学が中心でした。CB1再開発地区に建てられたマンションは、仕事などで一定の期間だけ住む人が多いため問題が起こっても注意しにくく、治安があまり良くないとのことでした。また、デザインもチープで統一感がなく、歴史的な街並みとあっていないように感じられました。イギリスは日本と違って管理組合がないため、騒音などのトラブルが起こっても、どこに連絡したら良いかわからず解決しないことが多いということがわかりました。日本のマンションでは、管理規約などが細かく決められていることがほとんどで、それが普通ですが、イギリスはそのような規約はないと知り、とても驚きました。また、住居エリアの多くは投資用物件として購入されており、それがAirbnbで貸し出されているため、パーティーなどに使われる場合があり、住んでいる人にとって迷惑となっているとのことでした。さらに、CB1地区は学生用の物件も多いため、居住が安定しないことが問題の原因となっているのではないかと考えました。

ケンブリッジサイエンスパークは、大学の優秀な人材を留めるために作られたもので、広大な土地には研究施設だけでなく飲食店等の生活に必要なものがそろっており、一つの街のように感じることがわかりました。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

一日目と二日目はロンドンのホテル、それ以降はケンブリッジ大学エマニュエルカレッジの寮に滞在しました。ホテルは二人部屋で、寮は一人部屋でした。イギリスはカード文化なので、日本でいうコンビニのようなどころではカードオンリーの場合がありました。ただ、レストランやバルのようなところはチップの関係のあり、現金で払うことが多かったので、カードと現金を用意しておくことと安心だと感じました。

ロンドンは地下鉄が発達しておりアクセスも良かったので、地下鉄を使って買い物やご飯を食べに行くことができました。地下鉄は、1,2分で次の電車がくるので電車の多さに驚きました。日本と違い、ホームドアはありませんでした。

ケンブリッジでは、通訳さんにお勧めしていただいたバルやカフェ、寮の近くのバーなど、地元の人になじみのある店に行くことが多かったです。イギリスはご飯がおいしくない聞いていたので心配していましたが、バルやレストランのご飯はとてもおいしかったです。スーパーやコンビニの食べ物は好みはわかるなという味でした。授業では通訳さんがいるのであまり英語を使うことがないのですが、ご飯を食べに行くと注文などで必ず英語を話さなければならないので、そういう場面でコミュニケーション力が上がっていると感じることができました。どのお店の店員さんもとても優しく、楽しく会話することができました。

寮はとても伝統のある建物で、泊まることができたのは貴重な体験になったと感じました。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

今回の海外研修を通して視野が広がったと感じました。イギリス人からすると管理規約などで細かく規則が決まっていることがありえないということから、日本では当たり前だと思っているルールや感覚は世界的に見ると当たり前ではないと知ることができたからです。

教科書やネットなどでイギリスの伝統的な建物は見たことはあったのですが、実際に行って見学することで、歴史的な背景や開発に携わった人の意見を聞くことができ、とても勉強になりました。また、ヴォールトやステンドグラスなどを見ることができ、構造や作り方、維持の仕方に関心を持ちました。

イギリス人との交流を通して、積極性とコミュニケーション力が上がったと感じました。始めは英語を話すのが怖くて、1対1になるのを避けようとしていましたが、他の人が積極的に現地の人とコミュニケーションをとっているのを見て、自然と自分から話しかけられるようになっていました。

研修では、時間がない中で最終プレゼンの準備をしなければならなかったのですが、チームの一人一人が自分のできることに精一杯取り組み、プレゼンを成功させることができたのは良い経験になったと思います。

プレゼンのチームのメンバーだけでなく、研修に参加したメンバー全員が真剣に取り組んでいたのも、自分自身も頑張らなければならないと感じることができました。それぞれが今回の研修で何かを得ようとし、向上心を持って参加していたので、とてもいい雰囲気で行うことができたと思います。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

不動産仲介業のインターンシップに参加した際に、物件のデメリットをメリットとしてとらえるには視野を広く持つことが大切だと教えていただいたので、今回の研修で得た視野の広さを仕事にいかしていきたいと思いました。視野を広く持つことは、不動産仲介業だけでなく様々な仕事をする上で大切になってくると思うので、私生活から心掛けていきたいです。

また、不動産仲介業はお客様と関わる機会が多いので、コミュニケーション力が必要となると思います。初対面の人と会話する能力や積極性が重要になってくるため、研修を通して自分から話しかけられるようになったことはとても良かったと感じました。

今回の研修では、海外で活躍されている中島さんからお話を伺うことができました。その中で、自分の考えの硬さや視野の狭さに気づき、人生を豊かにするにはもっと積極的に行動しなければならないということ、目標を大きく持ってそれに向かって努力することが大切だと学びました。今までは日本国内の不動産に関する制度や資格、ニュースしか見ていませんでしたが、海外でなく日本で不動産に関わる仕事をするにしても、日本だけでなく世界全体の動きや制度を理解していかなければならないと思いました。これからは、もっと新聞やニュースを見て知識を深めていきたいです。

今回の留学を通して今まで話したことがない人と話すことができ、同じ学年の人でも将来についての考え方が違ったり新たな価値観を知ることができたりしたので、これからは自分から積極的に話しかけていきたいと思っています。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等：イギリス ケンブリッジ大学

研修期間： 2019年9月1日（日）～ 2019年9月10日（火）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

派遣先では、全体的な流れとして、グループごとに事前学習で調べた日本とイギリスの再開発事業を、実際に現地に行ってガイドの人から話を聞き、その話の内容や調べたものを比較しパワーポイントでまとめ、最後に全体で発表しました。最初に、ケンブリッジで学んだこととして、グループ活動でトランピントン居住開発を調べました。元々トランピントンは牧草地で、グリーンベルト地帯という原則開発禁止の場所だったのですが、その場所を一部犠牲にして開発を行っているということを現地のガイドから聞きました。開発したところには、居住区だけでなく、アデンプルックスのメディカルキャンパスや、ガン、心臓、肺、遺伝子の研究所もあり、病院の設備もかなり充実していることがわかりました。次に、座学でオックスフォード大学の教授などを招いて、イギリスの市場や賃貸を学びました。イギリスの不動産の仕事は、すべて分業されていて、YPが分かりやすくなり鑑定がしやすいことを知りました。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

滞在形態は、9月1日から2日まで、キングスクロストラペロッジホテルに泊まり、3日から9日までをケンブリッジ大学のエマニュエルカレッジで泊まりました。派遣先での生活できづいたことは、日本とイギリスの文化の違いをととても感じたことです。日本のホテルでは、靴を脱いで、裸足やスリッパで室内を移動するが、イギリスでは寝るとき以外は靴をはいて生活するので、とても新鮮な経験を得ることができました。あと、バスルームとトイレが同じ部屋にあることも、水回りをひとつの部屋にまとめてあるところも工夫されていて良かったと思いました。現地の人とは、最初は言葉の壁があり話しかけることに抵抗があったのですが、とても親身になって話を聞いてくれて、わかりやすいようにゆっくり話してくれたり、優しく接してくれました。初めて会った人でも写真を一緒に撮ることを許可してくれて、とても心が広い方が多かったです。ケンブリッジの町は人が多くにぎわっていて、路上で演奏している人がいたり市場があったりと活気があふれていました。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

海外研修を通じて感じたことは、行く前はあまり海外というものに興味が無く、課題も少し面倒くさいと思っていてやる気も起きませんでした。今思うと、直でロンドンの建築物を目にしてとても良かったと思っています。日本ではもうすでに壊れていてもおかしくないような築年数の建物が町のいたるところにあり、とても歴史を感じる街並みとなっていました。近代的な部分としても、電柱の地中化がなされており、ロンドンという古い歴史を持つ街並みの景観を壊すことのないように作られていました。日本でも電柱の地中化がされているところがありますが、極々少数の場所でしかなく、ほとんどできていないといっても過言ではありません。なので、日本もロンドンや他の海外の不動産やまちづくりのいいところを積極的に吸収するべきだと、今回のケンブリッジ研修で強く感じました。さらに、私は自ら知らない人に話しかけることに苦手意識があり、ケンブリッジ研修に行く前は、誰ともコミュニケーションをとろうとしませんでした。今回の研修で同じグループのメンバーにたくさん話かけていただいて、自信をつけ、成長することが出来ました。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

今回のケンブリッジ研修で、学生生活において活かしたいことは、自分から人に話をかけることです。今までは、友人から声を掛けられたときしか話をせず、講義でもたくさん自分から人と話す機会があったにも関わらずほとんど話そうとしなかった為、少し孤立していたときもありました。しかし、今回の研修で人とコミュニケーションをとる楽しさや大事さというものをとても実感したので、できるだけ自分から友人に声をかけられるように努力しようと思います。他にも、企業のインターンシップでグループディスカッションの際、最初に自分からグループメンバーに話をかけられるように意識しようと思いました。将来に活かしたいものとしては、このケンブリッジ研修で培った知識を使って、就職先の企業でのまちづくりのプレゼンテーションで活かし、ゆくゆくは日本のまちづくりに貢献できるようなことをしたいと思っています。今年の9月に上陸した台風15号によって、千葉県では停電が起きましたが、もしその地域の電柱が地中化されていたら、大規模な停電になることはなかったと私は考えます。私は社会人になったら、このような惨事が起きないように今回の海外研修で学んだことを活かして、就職先でも活躍したいと思っています。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等：韓国 建国大学校他

研修期間： 2019年8月30日（金）～ 2019年9月5日（木）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）
1日目は釜山外国語大学校に訪問し、日本語学科の人たちと交流しました。また、そこで出会った学生たちに市内を案内してもらい、釜山の街並みなどを堪能しました。2日目はソウルに移動し、韓国民俗村に行き韓国の歴史や昔の生活の様子などを見学しました。夜は生徒だけで市内を周り、ご飯を食べたり観光などをしソウルの日常を体感することができました。3日目は景福宮という昔の王宮に訪問し、当時の王の生活などを見学しました。また、宗廟という昔の王や王妃の魂を安置する場所にも訪問しました。どちらの建物も、昔は火事が天敵だったため、魔除けとして三蔵法師御一行が屋根に設置されていたのが特徴的でした。4日目は建国大学を訪問し、学生たちと昼食を取りました。その後、統一展望台に行き北朝鮮との国境線を見ました。また、展望台にある望遠鏡で北朝鮮を見ることができ、そこで農業をしている人や自転車を漕いでいる人を自分の目で確認することができたので感慨深いものがありました。夜は建国大学の学生たちと再び合流し夕食を取り交流しました。5日目はZEHという省エネルギーハウスを見学し、その後は国立中央博物館に行き韓国の様々な文化財を鑑賞することができました。戦争記念館にも行き朝鮮戦争で起こったことや未だ北朝鮮とは休戦状態であるなど様々なことを感じ、また学ぶことができました。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）
韓国と日本はあまり違いがないイメージがありましたが、1週間滞在してみて人々の性格や気候の質、常識などの違いをたくさん感じました。日本は接客においてサービス精神が豊富ですが、韓国では客がいないときは携帯をいじっていたり、仕事の休憩時も客と同じ空間でご飯を食べてるなど日本では考えられないことがたくさんありました。しかし日本人は接客に関して神経質なため人見知りも多いですが、韓国ではこのような文化なので良い意味であまり人に気を遣うことがなく、おかげで自分も韓国の学生たちとすぐに心が打ちとけることができとても楽しい研修になりました。韓国の食事は大皿料理をみんなで取り分けて食べるが多く、飲食店に行くとキムチやナムルなどの小鉢料理がサービスなのでいつもたくさんの料理が並べられていて豪華な印象がありました。また、日本人は室内で過ごすことが多いと思いますが、韓国は湿気があまりなく外でも過ごしやすいため休憩などは外で過ごしている人や飲食店などではテラス席を多く見かけることができ、日本との違いを細部まで感じることもできたのでとてもいい経験になりました。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

今回の研修で感じたことは、言葉の壁です。今回は韓国の学生が日本語を話せたので学生同士のコミュニケーションの問題はなかったですが、生徒だけで市内を観光した時に言葉が通じないことに対して不安だったり不便さをとても感じました。韓国では就職先が海外というのは珍しくないため外国語の教育は日本より行き届いているなど感じました。元々韓国は日本の隣国なので親近感はありましたが、国立中央博物館に行き韓国の歴史に日本人が深くかかわっていたことを知り、勉強になったと同時に親近感が深まりました。また自分は今回の研修で初めて韓国に訪問し、韓国の様々な文化や習慣に直接触れることができ日本の文化と比較することで視野がとても広がりました。最初は韓国の文化に慣れず日本の文化を重視していましたが、韓国人と接してみている人が多く、当初の考え方が変わり韓国は日本にはない良さがあることに気づくことができ、互いの文化を尊重することができました。このような経験をできたことはこれからの自分にとってとても大きいことだと感じました。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

今回の研修で一番の課題だと感じたことは外国語です。特に英語を学ばなくてはいけないと感じました。研修に行く前は外国語は自分には関係ないと思っていたけど、異国の地に行き言葉の壁を実際に感じた時、いかに自分の考えが甘かったか痛感しました。今現在、グローバル化が進んでいる世の中で、日本にもたくさんの外国人が住んでいるので不動産も大きく関わっているといえます。そのため、世界共通語となっている英語の学習は必要だと感じました。また、異国の地に行ったからこそ分かるその国の文化や習慣は知れば知るほど自分にとってかけがえのないものになると思うし、世界にはたくさんの国と地域があるので可能性は無尽大です。そして日本の良さにも改めて気づくことができ、世界に日本の文化を発信できるチャンスがあるということです。自分はまだまだ狭い世界でしか生きてないことを実感し、価値観がとても変わりました。それくらいこの研修は自分にとって大きな経験であり、またこの経験は将来必ず役に立つものだと思います。

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等：韓国 建国大学校他

研修期間： 2019年8月30日（金）～ 2019年9月5日（木）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

一日目は、東京の成田空港からプサンに飛行機で向かった。到着後ホテルへ行きビュッフェの夕食を食べた。二日目は、釜山外国語大学を訪問し日本と韓国の文化の違いを韓国文化基礎講座という授業を通して学んだ。授業の内容は、車が道路の右側を走る、地域感情や差別をなくすために無くすために車のナンバーに地域名がない、店内はもちろんほとんどの建物の中は禁煙、正座の仕方が韓国ではあぐら、オンドルなので冬でも家の中は暖かいなどであった。現地学生とともに自由行動し交流会を行った。自由行動では、現地学生おすすめの場所に連れて行ってもらった。道路と車道の区別がわかりにくい通りがあり、広々と感じるが事故が起こる可能性があると感じた。三日目は釜山からソウルのほうへバスで向かった。途中韓国民族村という場所に訪れ、韓国の昔の建物や町の風景を感じることができた。日本にはない雰囲気と景色であった。四日目は、ソウル市内を見学した。景福宮、宗廟、ホンデを見学しに行った。景福宮では、王様が住んでいたという城をみた。とても大きく日本ではよく見られないような土地と建物の規模であった。宗廟では、王様と王妃の魂だけをまつる場所であった。よく手入れされており、とてもきれいだったが建物は低く質素であった。ホンデでは、お店が立ち並んでおりたくさん観光客や現地の人でにぎわっていた。五日目は、建国大学にて講義を聴いた。講義内容は、韓国の不動産市場、動向についてであった。その後、建国大学の学生と交流をした。六日目は、ソウル郊外を視察した。建物が高く、人口密度が高いと感じた。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

韓国に一週間滞在してみて、韓国での生活はとても難しいと感じた。韓国語がよくできずお店にご飯を食べに行き注文するとき、英語も日本とは発音が若干違かったので意思疎通が難しかった。韓国では、外国語大学の日本語学科の生徒、建国大学の不動産学科の生徒と交流会を行った。外国語大学の日本語学科の生徒の人たちとの交流会では、最近のニュースでは韓国と日本の仲が悪く、韓国人の方々は日本人にあまりいいイメージを持ってはいないのではないかと思っていたが、実際はとてもやさしく接して下さり、日本語もとてもうまく日本にいきたいと言っていたので、メディアで取り上げられていることがだけで判断してはいけないということを感じた。また、建国大学の不動産学科の生徒の方々もとても優しく接して下さった。韓国にも日本にある宅地建物取引士のような資格はありますかと聞いたらあるといていた。韓国の不動産学科はたくさんあり、建国大学の生徒にどのような勉強をしていますかときいたら競売や不動産ファンド、都市計画について学んでいると答えた。都市計画は同じく明海大学でも学んでいるが、競売や不動産ファンドのような分野は勉強したことがないので少し興味を持った。まず自分の国の不動産について勉強してから、興味があれば他の国の不動産についても勉強したいと話していた。私も外国の不動産に目を向けるという選択肢が増えた。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400字以上)

韓国研修を通じて成長したことは、研修前は韓国に対して日本と韓国の政治的な衝突やニュースをみて不安があり、あまりいい印象ではなかったが、聞いた話やメディアの情報を鵜呑みにせず、実際に現地に行って現地の方たちと話すことが大事だということがわかったことだ。また、言語の壁があり意思疎通がむずかしいなかでどう伝えるかについて考えることで、伝える力が成長した。外国語大学の学生は多くの学生が日本語を話せたが、建国大学の学生は日本語が話せる人が少なかったため、英語で伝えてみたり、ボディジェスチャーで伝えてみたりと試行錯誤をした。韓国で感じたことは、日本人よりも描くスケールがでかく、気が強く、思いやりの感情が強いということだ。韓国に着いたときに一番初めに目に入ったのはとてもでかいマンションなのであった。3、4棟のマンションが一緒に建っており、日本では見られないであろうスケールであった。韓国は日本ほど地震がないが地震が起きた場合に倒れる心配はないのかと感じた。韓国でモデルルームを見学した時も部屋が広く、ベランダがあるが外ではなく中にあった。ベランダの分も部屋化することで部屋が広く見えると感じた反面、火災などの災害時にどのようにしてマンションから逃げるのが困難ではないのかと感じた。食べるものもひとつひとつ量が多かったのも日本よりスケールがでかいと感じた。バスに乗った際、日本のバスとは違い出発も早く、降りる人が立角も早く、ゆれがとても強かった。子供が入ってきて座れずに立っていたらひとりのお姉さんが子供がこのゆれの中立っているのは危ないと思ったのか席を譲っているのを見てとても感動を受けた。何回も席を譲っている場面を見たため思いやりの感情が強い国なんだなと感じた。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400字以上)

私はこの韓国研修を通じて、外国でどのように過ごすべきなのか、どのようなことに気をつけたらいいのかを知れた。また、外国の不動産についても少し興味を持つことができたので、まず学生生活では日本の不動産について自分の興味のあることに取り組み、その知識を基礎として興味があれば外国の不動産の分野についても学んでみたいと感じた。韓国研修で屋台に行ってお飯を買った際、買ったことを現地学生に伝えたらもっと安く買える場所があったよと言われ、現地の人にしっかり聞くべきだと感じた。将来韓国以外の国に行く際もしっかり現地の人にどこがよくてどこがよくないのかを聞くべきだと思った。建物も日本とは違う部分が多くとても刺激を受けた。外国に行くと建物を見て気になった建物が合ったら、どのような経緯でそのような建物になったのかを知りたいと思った。また、日本でずっといて今まで外国の人と交流があまりなかったので今回の外国語大学の学生と建国大学の学生との交流をすることで韓国がどんな文化でどのような考え方で日本とはどう違うのかを知り、学んだ。このことを活かし、韓国人の方と会話したり交流の機会があれば積極的に話したいと思いました。

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等：アメリカ ハワイ大学

研修期間： 2019年8月20日（火）～ 2019年9月6日（金）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

ハワイ大学の授業は主に二つの形態に分かれていました。一つ目が、私たち10人だけのクラスで、ハワイ大学の先生が一人3時間ほど特別に講義をしてくれるものです。毎日異なる先生が、ホテルマネジメント、テクノロジー産業、文化、HRマネジメント、ウェディングプランニング、など観光産業について、教えていただきました。一方的に聞くだけでなく、個人で考え自分の意見を述べたり、仲間と考え発表したり、グループディスカッションなどもあり、英語を使用しコミュニケーションする場がありました。もう一つは、ハワイ大学の生徒の方と一緒に授業を受けるものでした。これは、普通に大学の授業を一部聴講しただけなので、概要などしか聞くことはできませんでした。しかし、同じクラスの方とペアになり交流する授業もありました。ホテルの視察は、普段は入れない客室やチャペル、レストランの厨房、オフィスなどを見ることができました。JTBでは、質疑応答の時間があり、ハワイの旅行業の現状はもちろんのこと、会社について、JTBの今後の取り組み、海外での仕事などそれぞれが疑問に思うことを聞くことができました。JALでは、私たちのために、パワーポイントでJALについて、航空関連の取り組みや現在について教えていただきました。機内食の工場では、600人ほどの少ない社員の方が、シフト制で働いていて、24時間工場をフル稼働させている大変さを、身をもって感じました。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

約二週間は、ハワイ大学の寮で生活をしていました。午前中で授業が終了する日が何日かあったので、ワイキキにザバスで行ったり、大学周辺を散策したりしました。食事に関しては、寮にいる期間は何人かで寮のキッチンを使用し自炊したり、昼に買って来たものを食べたりしていました。寮の周りには何もないので、ワイキキに滞在している際に比べ不便に感じました。なので、もう少し日本から食材などを持って来たほうが良いと思いました。また、日本人観光客や日本語を話せる方が比較的多く、海外にいるという危険を忘れてしまいがちですが、一步裏道に入ったところや夜道は危険がありました。しかし、ハワイの方々はとても優しく、困っていると助けてくれたり、気軽に話しかけてくれたりして、日本人も過ごしやすい環境だと感じました。また、日本人の規則とは違い、時間にルーズであったり、あまり細かいことに気を遣わなかったりするところがありました。海外なので文化の違いは多くありましたが、それがハワイの良さであると感じました。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

私は、一度ハワイを観光目的で訪れたことがあります。その際に、ハワイの人々の温かさに触れました。その温かさがどこから来ているものなのかハワイの文化や、歴史、観光を学ぶことで、知りたいと思い研修に参加しました。ハワイ大学の様々な授業を通し、現地の人々が持っているアロハスピリットや、観光産業が発展していく中で、ハワイが観光客を魅了している取り組みなどが関係していると私は感じました。また、スケジュール管理能力を向上することができました。10人で行動し、決められた時間を守り、自分たちで移動する日もあり、予定を自分たちで管理することが多くありました。誰かに頼るのではなく、ひとりひとりが責任をもって行動できました。そのため、自分たちでフリーの時間を有意義に過ごせました。また、この研修を通し、新たに興味を持ったものがあります。それは旅行会社でツアーを作ることです。ハワイには様々なツアーがあり、私も今回半日のクアロアに行くツアーに参加しました。ツアーを利用した理由として、ハワイはバスでは行きづらいところがあると感じたからです。このように、普段いけない場所やおすすめしたい場所を自分で企画し、お客様に提供できたら素晴らしいなと思いました。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

私は、普段の大学生活で常に授業を受け身で聞いていたなど気づきました。海外の学生たちは、自分から挙手し、自分の意見を怖がらずに述べ、日本の大学よりも賑やかに楽しく授業を受けていました。その様子を見て、私も英語で積極的に話していこうと勇気をもらうことができました。そのような点を、今後の授業でも活かし、積極的に質問し、授業に参加しようと思いました。また、私は将来、ホテル産業かエアライン産業に興味を持っています。就職に向けてさらに知識を増やすとともに、日本とハワイのおもてなしの違いなどを自分なりに見つけ、日本でできるおもてなしを、観光産業で働くうえで活かしていきたいです。そして私はこの研修に参加する前、就職が何よりも大事と考えていました。しかしどこで働くかより、何をしたいかを考えるようになりました。様々な業界について学び、やりたいことが明確になってきたからです。それを実現できるような場所を今後探していきたいと思います。また、ハワイの産業の中でトップである観光産業について詳しく学ぶことができたので、その知識を今後様々な方に伝え、広めていき、観光産業の未来についても考えていきたいです。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等：アメリカ University of Hawaii School of Travel Industry Management

研修期間： 2019年8月20日(火)～2019年9月6日(金)

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

【授業】：ハワイ大学マノア校で行った Presentation の授業では、ホテルや旅行など HT 産業のことだけに留まらず、IT やコミュニケーションスキル、マーケティングなどこの業界とも密接に関わる分野の授業もあり、多くの気付きと学びがありました。ハワイの歴史や文化を学ぶ授業では、フラやロミロミを実践的に教わり、楽しい時間を過ごすことができました。

また、現地の学生とともに受けた TIM の授業では、英語の話すスピード、授業の内容ともに、私たちが受けてきた Presentaion のものとは異なり、着いていくことに必死でした。現地の学生と話す機会もあり良い経験ができたと感じています。特に、他の地域から交換留学でき来ている学生も多く、たくさん刺激を受けました。少し残念であった点は、夏休み明けの授業で授業の概要をさらっと紹介して終わってしまったことがあったことです。

【視察】：カハラホテルやプリンスワイキキでは客室の隅々まで見せていただけました。客室一つにも拘りがたくさん詰まっており、その一つ一つをじっくり見学することができ、楽しかったです。ハレクラニホテルでの昼食は、格別の料理とともに一流のサービスを体験することができました。昼食後に JTB ハワイ ホノルル支店での視察を控えていた私たちのニーズに合わせ、長すぎず短すぎない料理のサーブ時間に調節したりと、思わず感動しました。そして、私が今回の視察でとても印象に残ったところは、JTB ハワイ ホノルル支店と JAL、IICC の視察です。デスクティネーションとしてのハワイ、航空業界の裏側、機内食の製造過程など普段見られない、聞けないようなことをたくさん知ることができ、新たな知識も増え、学びの多い視察内容でとても充実した経験でした。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

今回が人生で初めての寮生活でした。リンカーンホールには冷房がなく、ファンのみで少し暑かったです。ハワイも年々気温が上昇しているようで、毎日最高気温が 30 度以上でした。反対に授業で使用していたジョージホールはエアコンが強く、肌寒く感じました。寮での生活に少し触れると、大学の近くにスーパーがなかった為、日本から持参した乾麺や白米が重宝しました。寮での食事は基本三食自分たちで賄わねばならなかったため、普段実家暮らしの私にとっては自給力を身につける良いきっかけとなりました。そして、改めて感じたことは物価の高さです。ワイキキで夕飯を買うとなると、チップも加わり結局 10 ドル以上になってしまいます。物価が高いこともあり、極力持ってきた食料を使いつつ、足りない食材は現地で揃えて生活していました。

交通手段として主に、ハワイの市バスである The Bus を使用しておりましたが、初めは乗車方法がわからず、いつもドキドキしながら使用しておりました。しかし、不思議なもので、自然と慣れていきました。降車の際にドアの開け方がわかりませんでした。現地の方が教えてくださいました。出会った現地の方、みなさんがとても親切で、温かさを感じました。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

今回の研修を通して、自分の英語力の足りなさを痛感しました。話していることを聞き取れても、伝えたいことを上手く言葉に出来ず、もどかしい思いばかりでした。しかし、ワイキキの街に一步出ると、お店のスタッフの方々も日本語を話すことができる方が沢山いらっしゃったので、必要最低限の英語だけで過ごすことができました。その事実にも、大変驚きました。ここまで日本人にとって言語の壁を感じない海外の観光地はないのではないのでしょうか。日本人観光客が最も多い理由も頷けます。むしろ、日本人観光客が多いために街に日本語表記が多く、日本語が話せる人がワイキキに集まるようになったのでしょうか。

これまでにハワイを訪れた経験はなく、初めてでした。国外のリゾート地へも訪れたことがなかったため、ハワイという場所がとても新鮮でした。JTB ハワイ ホノルル支店にて、ハワイが他の観光地と異なるところはどこかを質問し、その質問に答えてくださったマルオカさんが、豊かな自然はもちろんの事、現地の人にアジアの方が多く、安心感(疎外感を感じない)があり、日本人に身近でありながらも、ハワイと近いイメージを持たれるグアムよりは外国感を感じることができるところではないかとおっしゃっていました。確かに、異国でありながらもどこか安心できる雰囲気を感じました。

そして、企業での視察では新たな学びが多くありました。ホテルの客室一つひとつにゲストをもてなすこだわりを感じました。普段見られないような裏側も見せて頂けて楽しかったです。また、今回の研修で、ハワイの歴史や文化を現地で体験したいという目的を胸に、研修に臨みましたが、ハワイ大学の授業で先生から直接ロミロミやフラのレクチャーを受け、ビショップミュージアムでは、ハワイの歴史を学ぶことができ、目的を果たすことができました。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

まずは、不足していると感じた自身の英語力と向き合い、今後の学生生活も勉強を続けていきます。時間が自由に使える今だからこそ、自分の将来のためにもっと英語力を高めていきたいです。

今回の研修を通し、外国の文化や歴史を自分の目で見て、体感することの面白さを改めて感じる事ができたので、今後も異文化に触れることができるような機会を増やしていけたらと思います。普段の旅行の目的はショッピングや食べることがほとんどで、現地特有のものに触れる機会を逃していたことを今更ながら、後悔しております。この研修に参加して、気づくことができたので結果としては良かったのです。ハワイは特に食文化であったり、日本の文化と近い点も多くあったので、もう一度訪れてみたいです。そして、HT 学部の学生として、これまで HT 業界について学んできましたが、研修参加前に比べると観光についてだけでなく、HT 業界に関してもハワイについても、知識が増えたのではないかと思います。この知識を忘れることなく蓄積していきたいです。

入学する前も、入学した後もまさか自分がこの奨学研修に参加できるとは思っていませんでした。長くも短い 18 日間でした。このハワイで過ごした 18 日間は、私の人生においてもとても意味のある経験となりました。